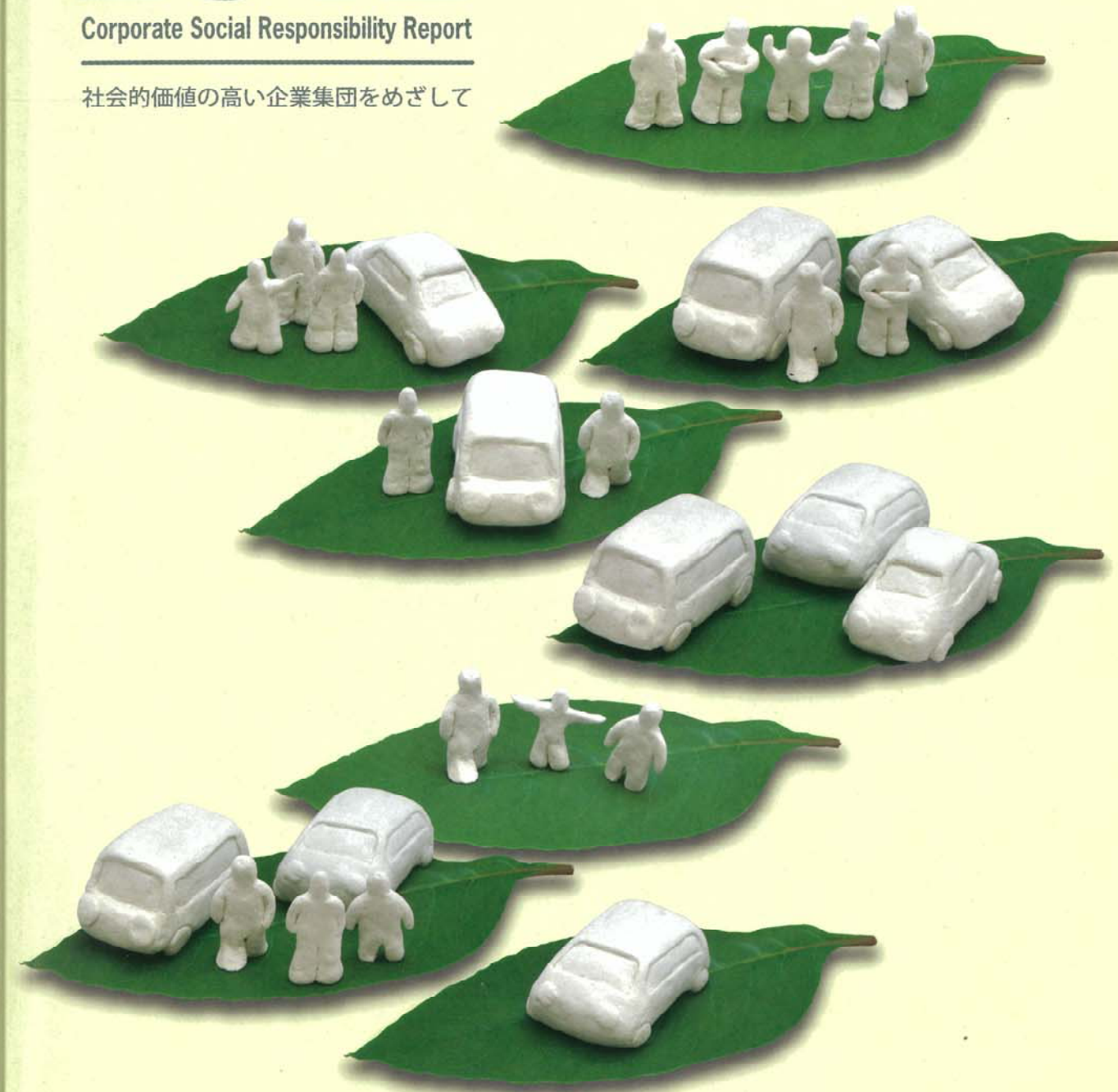




CSRレポート 2012

Corporate Social Responsibility Report

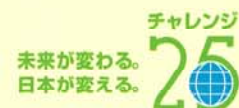
社会的価値の高い企業集団をめざして



www.ngp.gr.jp

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合 環境委員会
〒108-0074 東京都港区高輪3-25-33長田ビル2F TEL.03-5475-1208

2012年10月29日発行



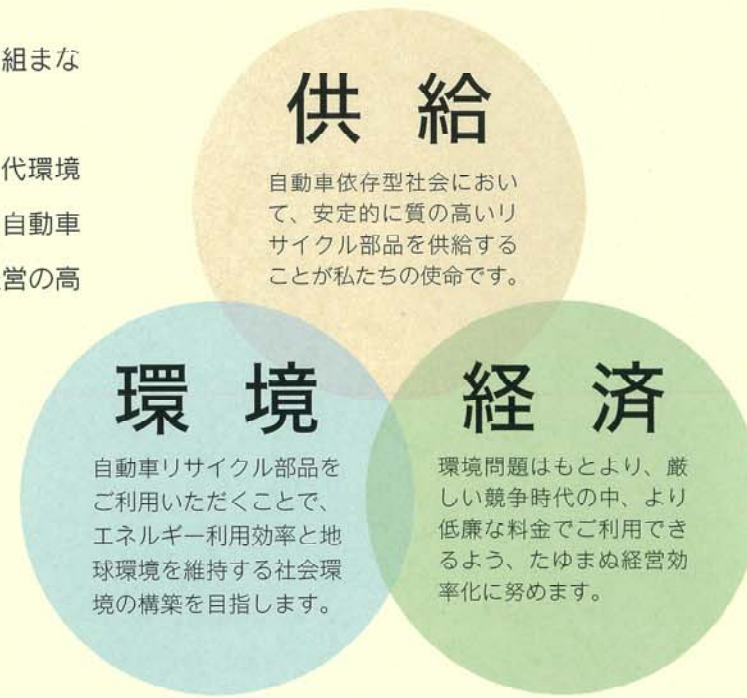
NGP日本自動車リサイクル事業協同組合

持続可能な地球環境保全活動に取り組みながら 新たな環境経営を創造していきます

地球温暖化、環境汚染、資源の枯渇など取り組まなければならない課題が山積みしています。

自動車業界においても、EVやHVなどの次世代環境車の開発が急ピッチで進んでいる中、私ども自動車リサイクル事業者は新時代に適応した環境経営の高度化が求められています。

NGPは循環型クルマ社会構築のため、リサイクル部品の品質基準を堅持し新技術の研究開発にチャレンジしていきます。今後も使用済み自動車の適正処理と同時に、リサイクル部品の普及・啓蒙活動に全力投球していきます。



CSRLレポート 2012 CONTENTS

トップメッセージ..... 2	リユース部品の販売 18
トップコミットメント..... 3	リユース部品の在庫 19
CSRマネジメント 4	環境マネジメント..... 20
NGPにおけるCSR 4	NGPの事業活動におけるCO ₂ 削減 20
コーポレートガバナンス 6	ステークホルダーとともに..... 24
コンプライアンス・リスクマネジメント 7	お客様とともに 24
品質管理マネジメント 9	従業員・調達取引先とともに 26
NGPの事業活動 10	社会とともに 27
2011年度事業報告・活動報告 10	地域とともに 29
使用済み自動車の適正処理実績 12	東日本大震災復興支援に関する取り組み 30
リサイクル部品の生産・販売実績 13	NGPのベルマーク活動 32
使用済み自動車のリサイクル 14	第三者意見..... 33
廃車の買い取り「廃車王・くるマック」 15	NGP協同組合概要・組合員名簿 34
リユース部品の生産 16	
リユース部品の保証基準 17	

本報告書の概要

■本報告書の対象範囲

○対象期間
2011年度(2011年9月～2012年8月)の取組みを中心に報告しています。
○対象範囲
NGP日本自動車リサイクル事業協同組合および組合員企業

■編集方針

本報告書はNGPのCSR(企業の社会的責任)活動と取組み成果をステークホルダー(お客様・取引先・地域社会・従業員など)の皆様にご案内して、コミュニケーションを図り、取組みのさらなる向上をめざすことを目的に発行しています。本報告書では主要課題(事業を通じた価値の提供・資源リサイクル・地球温暖化防止対策)を優先的にご報告しています。

「信頼されるNGP」に向けて

東日本大震災から1年半余りとなりますが、被災地とりわけ原発被災地の福島では復旧もままならず依然として避難生活をしいられ苦しんでいる方々に心よりお見舞いを申し上げます。

さらには国内外での洪水、豪雨、台風災害など多くの自然災害が発生し、NGPグループとしての社会的使命、社会貢献、社会的役割について考えさせられた1年でありました。

当組合は昨年の東日本大震災の被災車両撤去活動に取り組む中、被災地の小中学校の悲惨な状況を目の当たりにし強く心が痛み、継続的な復興支援で何ができるかを考えてまいりましたが、本年2月ベルマーク協賛会社の認定をいただき「被災地の学校へ届け、みんなのベルマークの支援活動」を展開することができました。

このベルマーク活動は協賛会社としての役割はもちろん、収集活動においてもNGP本部・組合員各社のみならず、損害保険会社様、エコひろば登録整備工場様のご賛同も得て、徐々にではありますが「ベルマーク運動の輪」が広がりにあることに感謝を申し上げます。

さてNGPグループは創立以来、「お客様第一」「よりよい商品をより正確により早く」「補修部品業界のリーダーたること」の三大信条を基本理念として事業活動に取り組んでまいりました。

当組合がおこなう教育研修にて醸成するNGP結束力は、NGPリサイクル部品の信頼の証であり、本部が構築するISO9001品質管理体制は、組合員社員の絆とコミュニケーションを重視する組織運営の基盤としております。

近年、国内外での経済不況要因が重なり合い自動車業界、損害保険業界、そして私達のリサイクル業界も厳しい事業環境が続くものと心配しています。

保有台数の減少、部品物流費の著しい上昇、自動車保険料率の大幅改定など、私達NGPグループにとりましても持続的成長を続けるためには乗り越えなければならない課題であると認識しております。

折しも今回の各損害保険会社の自動車保険料率改定は、リサイクル部品市場を一変させるものと考えております。供給率、価格面、品質保証などリサイクル部品業界が抱える問題点の解消に向けて大きな改

革と改善に取り組まなければならない使命を与えられたものと受け止めています。

私達NGPグループでは日本のリサイクル部品市場が欧米に比べ規模が小さすぎる原因をカーユーザーに対するリサイクル部品の認知度啓蒙不足が原因であると考えてきました。

カーユーザーの一人ひとりを損害保険会社、自動車整備事業者、NGPが共有するトリプルカスタマーであるとの認識に立ち、カーユーザーが要望する様々なニーズに対応するリサイクル部品関連の総合的なサービス提供を『クルマ直しの、新しい選択』をキャッチフレーズに整備事業者を紹介するサイト「エコひろば」の展開を中心に実現へ近づけてゆきたいと考えています。

損害保険会社が期待する損害率低減、自動車整備事業者が期待するお客様入庫誘導、NGPが期待するリサイクル部品利用拡大のそれぞれのベクトルを一方向に向かわせることで、お客様利益を確保する満足度のより高いサービス提供が前進するものと考えています。

当組合は組合員会社が各地域において信頼され、また期待されるリサイクル事業活動を通して、ステークホルダーの皆様にとって価値ある組合へ持続的に成長することを目指しています。

これからも環境貢献、社会貢献の事業活動に取り組んでまいりますので、引き続きのご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合
理事長 長谷川利彦

NGPにおけるCSR

社会価値の高いグループをめざして

NGPは地球環境保全を願って「基本理念」「行動指針」を2002年制定し、組合員が共有すべき価値観・心構えとする活動基準を示しました。これを組合員一人ひとりが日々念頭において活動することが、NGPのCSR活動の根本になっています。使用済み自動車の適正処理を円滑に機能させ、質の高いリサイクル部品が市場に流通する循環型社会構築に向けて社会的価値の創造に努めます。

またNGPは発足以来「お客様への優れた価値の提供」を重視し、グループ全体で「お客様第一」の姿勢を貫くことで事業を成長させてきました。これからも「お客様第一」による持続的成長を遂げるこ

とがCSR経営であると考え、ステークホルダーとの健全で良好な関係を維持・向上させ、社会の持続的発展に貢献します。

CSR活動はステークホルダーとのコミュニケーションが重要と考えます

NGPの事業活動は多くのステークホルダーの皆様（利害関係を有する方々）との協力で進められています。私たちの理念の実践とCSRを果たすためには、それぞれのステークホルダーの皆様への責任を明らかにするとともに、日頃よりさまざまな方法で皆様のご意見・ご要望をお聞きして、経営目標に反映させます。

主なステークホルダーとNGPの責任



お客様

商品・サービスへの信頼

主な責任

- お客様満足の向上
- 安心・安全な製品とサービスの提供
- お客様への適切な対応とサポート
- 製品情報の適切な提供
- 個人情報の適正管理

組合員(会員)

商品・サービスの提供

主な責任

- 企業価値の維持・増大
- 適時・適切な情報開示
- 社会的責任への対応

取引先

公平・公正な取引関係

主な責任

- 公正な取引
- 調達取引の公平な選定
- オープンな取引機会

従業員

商品・サービスへの信頼

主な責任

- 人権の尊重
- 人材育成と活用
- 公正な評価・処遇
- 職場での安全衛生と健康管理
- 個人情報の保護

地域・社会

地域連携・社会貢献

主な責任

- 環境への配慮
- 地域社会への貢献活動
- 事業所での事故・災害防止

行政・関係機関

適正な情報開示とコミュニケーション

主な責任

- 法令の遵守
- 社会問題の改善・解決への協力

基本理念

これからも環境リサイクル時代の社会貢献活動に取り組みます

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合の前身であるNGPグループは1985年(昭和60年)に結成され、2004年には国内唯一の経済産業大臣認可の事業協同組合として組織を法人化したしました。

環境問題や資源問題に対する意識が全世界規模で高まる昨今、国内でも産業の裾野が広い自動車業界では、特に積極的な対応が求められています。

また2005年からは、自動車リサイクル法が完全施行となり、法令遵守、使用済自動車の適正処理が義務付けとなりました。

このような時代背景から、NGPグループではこれまで、従来のリサイクル部品共有在庫ネットワークの運営を行うとともに、使用済み自動車適

正処理ネットワークとして全会員参加によるエコ推進運動の展開、損害保険会社・リース会社等の全損車取引マニュアルを作成し、その適正処理を遵守した業務や自動車リサイクル法等の新たな制度説明会などの組織的活動を展開してまいりました。

さらに前述のとおり組織を法人化することで急激に進む環境保全への迅速な対応、専門性を追求する役割に対してNGP協同組合の組合員が果たすべき使命を全うできるような体制が整いました。

NGP協同組合はこれからも、リサイクル部品の規格統一化、技術教育、啓蒙活動など、環境リサイクル時代の社会貢献活動をNGP協同組合組織活動の主課題として全力で取り組んでいきます。

NGPグループ21世紀宣言

- 一、我々は、使用済み車を適正に処理します
- 一、我々は、自動車リサイクル部品を全面的に啓蒙します

我々NGPグループは、リサイクル部品流通業界のリーダーとして、一人ひとりが責任を持ち、21世紀の社会に貢献していくことを誓います。2005年施行の自動車リサイクル法に合わせ、地域社会に信頼され、存在価値のあるグループを目指します。

行動指針

- ① 環境保全活動を当グループの最重要課題と位置づけ、グループ全従業員の共通認識とします。
- ② 環境に関する法律、規制、自動車リサイクル法等を遵守し環境保全に取り組みます。
- ③ 環境負荷低減のため、環境目的・環境目標を定め、定期的に見直しを行うことにより、継続的な改善を図ります。
- ④ 工場内における解体作業については、適正かつ効率的なリサイクルが行われるよう解体技術の向上に努めます。また、同時に廃車車輛の全てにマニフェスト発行による管理を徹底します。
- ⑤ 設備の稼働については通常時のみならず、非通常時においても廃棄物の漏れ、飛散等の未然防止、及び騒音の削減等の地域環境保全に努めます。
- ⑥ 事業活動全般に関して大気汚染、土壌汚染、水質汚染、悪臭の防止に努めます。
- ⑦ グリーン購入法に基づき、使用物品等を見直し、再生紙などの利用促進をするとともに、電気・水道水等のエネルギー消費の低減に取り組みます。
- ⑧ 定例ブロック会議を通して本方針を全グループ企業に周知させるとともに、グループ全従業員に対して教育し、自覚と意識の向上を図り、広く一般に開示します。

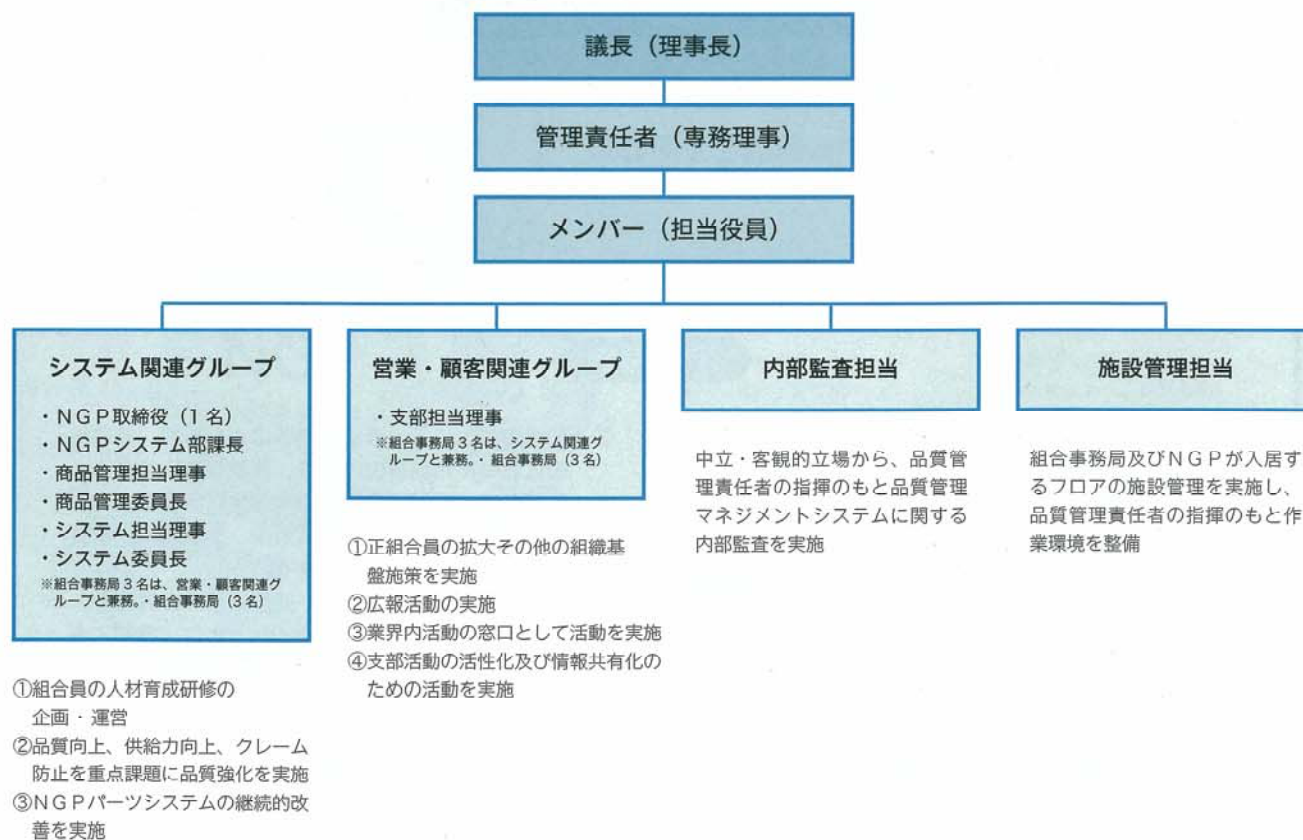
コーポレートガバナンス

機動性と指導監督機能を高め NGPの価値向上を目指します

事業の継続的な発展とCSR経営の継続的な推進による企業価値の向上に向けたガバナンスの確立に取り組んでいます。

さまざまなステークホルダーに向け、社会における課題に対応するため、内部統制の仕組みを整備して、健全性・効率性・透明性の高い経営を実践していきます。基本理念・行動指針制定以来、理事長を議長として各部署の把握、担当役員全員がメンバーになり、CSRに関する組合員企業の課題についての方針や対応を毎月定例として検討しています。経営環境の変化に的確に対応し、グループ経営の強化により企業価値を向上することがコーポレートガバナンスの基本であると考えています。

■コーポレート・ガバナンス体制



内部統制する組織体制

職務の執行にあたり、関連法令ならびに組合定款、基本理念、行動指針、品質マネジメント、コンプライアンス規制および個別の組合規則、通達等を遵守するものとし、これを確保するための体制を整備しています。

●CSR経営の活動基本

1. すべての事業活動は、生命・安全・コンプライアンスを最優先します
2. CSR活動
 - (1) 環境マネジメントの推進
 - (2) 品質マネジメントの推進
3. ステークホルダーへの説明責任

コンプライアンス・リスクマネジメント

コンプライアンスの取組み

社会から信頼・共感されるための基盤はコンプライアンスが事業活動の原則であるということから、コンプライアンス意識の向上に努めるとともに、ステークホルダーへの期待に応えるため、リスク管理体制の強化を進めています。

NGPは基本理念に基づき、経営トップが率先して一人ひとりが公の立場に立って、法令遵守はもとより社会規範・企業倫理に則って誠実に行動するものとしています。そのため組合員企業の組織風土を継続的に変革するとともに、不正防止、責任体制の確立に取り組んでいます。

コンプライアンスの具体的基準

遵守しなければならない具体的基準として、次の22項目を掲げています。さらにコンプライアンス規制では、その他すべての関連法令も遵守対象としています。

■コンプライアンスの具体的基準(22項目)

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 安全管理 | 13. 不当差別の禁止 |
| 2. 環境保護 | 14. セクシャル・ハラスメントの防止 |
| 3. 消費者保護 | 15. 個人情報の保護 |
| 4. 独占禁止法の遵守 | 16. 児童労働、強制労働の防止 |
| 5. インサイダー取引の禁止等 | 17. 利害相反行為の禁止 |
| 6. 不正競争防止法の遵守 | 18. 会社資産の使用禁止 |
| 7. 政治家、官公庁、公務員との公正な関係 | 19. 会社情報等のセキュリティ確保 |
| 8. 情報開示、責任説明 | 20. 適正な輸出管理 |
| 9. 反社会的勢力への対応 | 21. 投機目的取引の禁止 |
| 10. 適正な会計処理 | 22. 危機管理の徹底 |
| 11. 労働時間等の公正申告 | |
| 12. 贈答品等の受領禁止 | |

コンプライアンスの推進体制

NGPにおけるコンプライアンスは理事会の下部組織として設置された委員会を中心に運営されています。コンプライアンスに係る教育・啓蒙活動の方針を策定するほか、重点テーマについて取り組み状況を把握して評価しています。

リスクマネジメントの取組み

事業活動を遂行するうえで、経営に重大な影響を与える危機を予防し、万一危機が発生した場合に対処する仕組みをつくることは重要な経営課題と認識しています。事業構造・環境変化など今後のリスク管理体制を構築し、危機の予防と発生時の被害軽減などを重点に置いて取り組みをしています。

2011年3月11日に発生した東日本大震災による地震などの大規模災害など新たなリスクも顕在化しており、今後のリスク傾向を見極めながら、リスク管理を強化していきます。

■主なリスク項目

内部要因	環境汚染、労働災害、契約義務違反、生産障害、リコール、苦情トラブルの拡大、人事労働問題、人権問題、機密漏洩、不良債権、情報システム障害、交通事故など
法令違反	独禁法違反、脱税、従業員・役員の犯罪、不祥事、特許侵害など
外的要因	偶発事故、輸送機能トラブル、株の買占め、株主代表訴訟、サイバーテロなど
災害・事変	自然災害、急激な為替・金利の暴騰、遭遇事変など

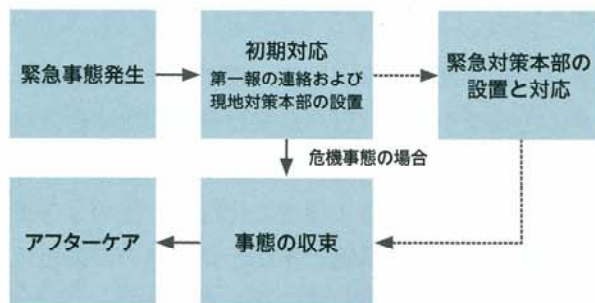
災害の未然防止と緊急時対応

事業活動においてNGPは大量の危険物を取り扱っています。したがって火災・爆発事故・労働災害といった災害の未然防止を最大の課題と位置付け、設備保全や運転管理、社員の教育研修など、あらゆる機会を通じて徹底を図ることとしています。

台風・地震などの自然災害やテロ対策を含めた万一の緊急事態発生にも備えて、適切な対応を図る体制を強化しています。

事故・災害の発生時の対応は連絡通報および防災活動の指揮方法を定めており、これに基づき適切な防災措置をただちに行うとともに、体制が機能することを定期的に確認しています。

■連絡通報および防災活動の指揮方法



災害発生時の対応

万一事業所内で災害が発生した場合は災害発生事業所などにおいて①災害調査報告書、②対策および再発防止策実施計画書、③災害原因分析書を作成することとしています。作成後本部に報告され、理事会において検討されます。最終的に本部で共有化し、

再発や類似災害の防止を図ることとしています。

情報セキュリティ対策

他者からお預かりした情報も含め、すべての情報の安全確保と適正な活用を行うために、社内外の脅威と脆弱性から情報を守るルールを定めて、情報セキュリティおよび個人情報保護活動に取り組んでいます。「プライバシーポリシー」を2005年に策定、本部のコンピュータセキュリティの強化を2007年に実施し、万全のセキュリティ対策の確立を目指して、定期的で適切なメンテナンスを実施しています。また組合員全社で個人情報保護の正しい理解の徹底と社内体制の整備・向上を図っています。特に注意すべき項目を「重点項目」として各組合員に通知し、全従業員に注意喚起を促しています。

プライバシーポリシー 個人情報の取り扱いと管理について

規定遵守の呼びかけとともに、きめ細かな指導を行っています

個人情報保護方針

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合（以下「本組合」という。）は、本組合の事業活動を通じて得た個人情報の保護に努めることを社会的責務と認識し、以下の方針に基づき個人情報の保護に努めます。

1. 個人情報の取得について
本組合は、適法かつ公正な手段によって、個人情報（氏名、性別、生年月日、住所、電話番号、FAX、メールアドレス、所属組合、役職、その他の記述により当該本人を識別できるもの）を取得いたします。
2. 個人情報の利用について
本組合は、本組合の事業活動やサービス提供の過程で収集した個人情報を本組合事業活動及びサービス提供とこれに付随する業務を行う目的の範囲内で利用させていただきます。
上記以外の目的で利用する必要がある場合には、あらかじめご本人の承諾を得ることを前提といたします。
また、収集した個人情報の取扱いを外部に委託する場合には、委託先について厳正な調査を行ったうえで、個人情報の漏洩等の事故が発生しないよう適正な監督を行います。
3. 個人情報の第三者提供について
本組合は、下記の場合を除き、個人情報を、事前に本人の同意を得ることなく、第三者に提供いたしません。
(1) 法令に定める場合
(2) 国の機関若しくは地方公共団体又はその委託を受け法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要がある場合であって、本人の同意を得ることにより当該事務の遂行に支障を及ぼすおそれがあるとき。

4. 個人情報の管理について
(1) 本組合は、個人情報の正確性を保ち、これを安全に管理いたします。
(2) 本組合は、個人情報の紛失、破壊、改ざん及び漏洩等を防止するため、不正アクセス、コンピュータウイルス等に対する適正な情報セキュリティ対策を講じます。
(3) 本組合は、個人情報を持ち出し、外部へ送信する等によりこれを漏洩させません。
5. 個人情報の開示・訂正・利用停止・消去等について
本組合は、本人が事故の個人情報について、開示・訂正・利用停止・消去等を求める権利を有していることを認識し、これらの要求がある場合には、誠実に対応いたします。
6. 組織・体制
(1) 本組合は、個人情報保護管理責任者を置くとともに、個人情報を取り扱う部門ごとに部門責任者を置き個人情報の適正な管理を実施いたします。
(2) 本組合は、役員に対し個人情報の保護及び適正な管理方法についての研修を実施し、日常業務及び退職後における個人情報の適正な取扱いを徹底いたします。
7. 個人情報保護コンプライアンス・プログラムの策定・実施・維持・改善
本組合は、この方針を実行するため、個人情報保護コンプライアンス・プログラム（本方針・個人情報保護規程その他の規程を含む）を策定し、これを本組合役員その他関係者に周知徹底させて実施し、維持し、継続的に改善いたします。

品質管理マネジメント

ISO基準による品質向上の取り組み

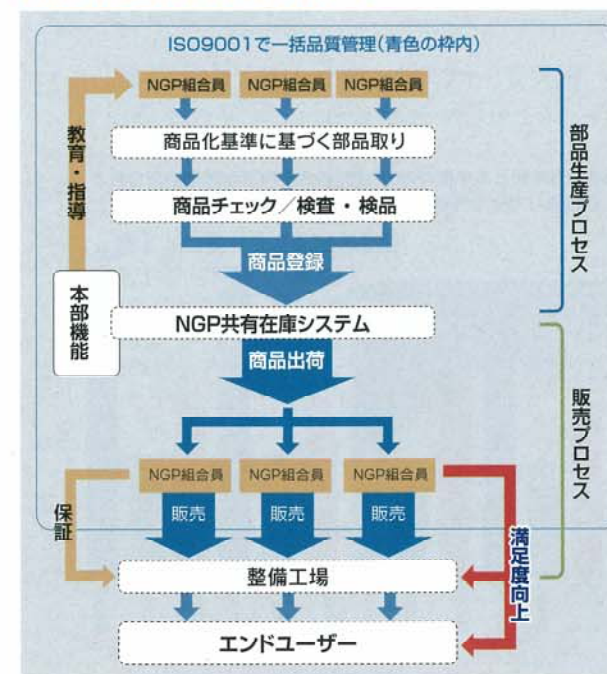
リユース（リサイクル）部品の品質は昨年業界12団体での統一基準が実現しましたが、NGPは発足以来リユース部品を安心して利用していただくためにグループ内で厳正な品質基準を設け、適正な製品だけを共有在庫として取り扱い、市場に供給する努力をしてきました。

この結果リユース部品としての「NGPブランド」が定着化し、さらに世界基準の品質でリサイクル部品を提供することをめざしたISO9001を2007年に認証取得しました。本部で運営する共有在庫システムを軸に組合員の部品生産・登録までの全プロセスを一括してISO9001でマネジメントし品質管理を本部が負うとの方式です。

NGPはリユース部品の生産・登録業務を標準化して品質レベルの揃った製品を在庫し、販売面でも統一的な品質保証レベルを示すことで、お客様に製品を安心して購入いただける体制を確立しました。

ISO9001認証取得は部品生産登録の一連の流れが国際的な品質規格で管理されていることを意味します。

■構築する品質管理体制のイメージ



品質マネジメントの体制

NGPはお客様に満足していただける商品・サービスを提供するため、品質マネジメントを確保する以下の体制を整備しています。

■それぞれの役割

- (1) 理事長の役割
品質マネジメントシステムの構築およびその実施、ならびにその結果が計画通りに達成されるよう改善します。
- (2) 専務理事の役割
専務理事は品質管理責任者に位置づけられ、品質管理責任者は理事長を補佐し、品質マネジメントに関する業務の一切を統括します。
- (3) システム関連グループの役割
「商品化基準」および「NGPパーツシステム」の制作・運用管理を中心に活動し、組合員からの意見を吸い上げ、改善へとつなげていきます。
- (4) 営業・顧客関連グループの役割
各支部の活動と連携しながら「商品化基準」の製作・運用管理に関する組合員からの意見や、ユーザーからの苦情を収集・分析し、改善のための活動を実施します。
- (5) 商品管理責任者
「品質マネジメント」の徹底を図るために各組合員は企業内に商品管理責任者を配置して、製品の生産・検査から保管・登録までの管理と品質向上の業務を実施します。

品質管理に関する基本活動に取り組んでいます
製品安全のための品質確保とお客様への積極的な情報開示を誠実に実施しています

- 品質管理に関する基本活動
1. お客様の立場にたった品質の確保をします
 2. 関連法令と契約を遵守してお客様の権利を尊重します
 3. さらなる品質システムの研究・開発をします
 4. 事故発生などの原因追及による本質改善に努力します

2011年度事業報告

わが国経済は未曾有の東北地方大震災の影響を残し依然として厳しい状況下であります。復興を目指した政策効果等もあり生産活動が徐々に上向き、一部には景気の持ち直しもありましたが、引き続き欧州債務危機による海外経済の下振れや、国内外の自然災害の影響を受け、先行景気観も「当面横ばい圏内にとどまる」と厳しい状況が続くものと見込まれています。

自動車業界はエコカー補助金の復活が寄与するなど、平成23年度の新車販売台数(登録車+軽自動車)は、475万台、3.2%の増加となりました。また平成23年度自動車分解整備実態調査によると総整備売上高は前年度比2.1%増の5兆6021億となり2年連続の増加となりました。

しかし今後においては円高、デフレ、少子高齢化等の影響は避けようなく自動車保有台数の減少による市場規模の縮小傾向が続くものと見込まれています。

自動車リサイクル業界では2005年施行された自動車リサイクル法制度の政策面や施策の変化が起きつつあり、使用済自動車の流通構造にも新しい変化が生じ始めており、資源リサイクルとリユース部品の将来市場に新たな課題が浮上しています。

とくに使用済自動車の発生台数が減少するなかで、使用済自動車が大解体事業者に集中する流れが鮮明になって、規模格差がさらに拡大するとの危機が顕著化するという、中小事業者の経営課題が浮上してきています。

さらには国内外での次世代自動車のHV車・EV車等の技術開発・革新が目覚ましく、次世代自動車が搭載するレアメタル、リチウムイオン電池の回収スキーム等が自動車リサイクル制度の新しい課題として、引き続きこれらの動向を注視する必要があります。

当組合は今期、「次世代へ挑戦、NGPプロフェッショナルリズムを磨き続けよう!」をテーマに掲げて、全国の組合員会社が、地域密着したリサイクル部品事業活動を通して、環境貢献活動、社会貢献運動に取り組んでまいりました。

今期実績はリサイクル部品売上金額が、455億3,380万円と前年比6.0%増加し、生産金額は151億1,252万円の前年比8.5%の増加となりましたが、一方、使用済み自動車仕入台数では前

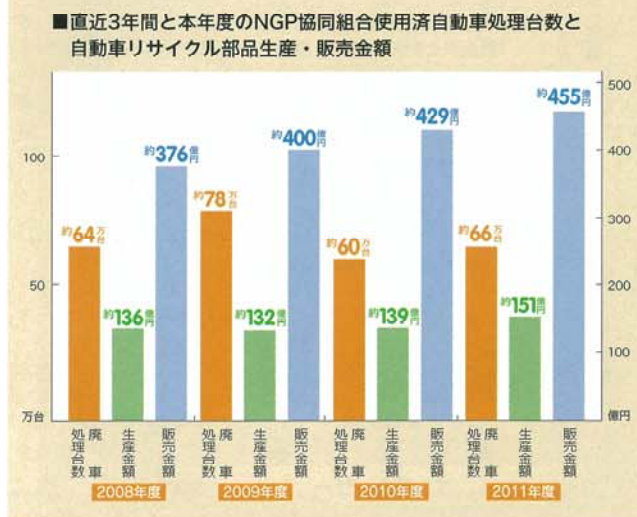
年の大幅減からは回復し655,851台となり前々年比では、なお約128,660台の処理台数の減少があり厳しい車両仕入状況となりました。

当組合では理事及び委員長で構成する執行部、支部理事を中心とする支部役員、各支部所属組合員が「情報共有・相互交流・相互扶助・切磋琢磨」を共通する認識のもと、強い団結力をもって組織活動に参加することで、当組合の環境貢献活動、社会貢献活動の実現に取り組んでおります。

リサイクル部品利用時のCO₂削減効果のみならずリサイクル部品生産工程での生産効率化システム導入、物流工程でのリターナブル梱包資材利用拡大への取組みは、当組合事業としてのCO₂排出削減にも大きく寄与しています。

また復興に向けた支援活動においては、東日本大震災被災地の仙台市・岩沼市被災車両集積地からの撤去処分が平成24年3月に無事完了することができました。当組合はこの被災車両救援活動を継続的取組へと繋げる為、ベルマーク協賛会社となり平成24年4月1日から「被災地の学校支援のためのベルマーク運動」を展開しました。

当組合では持続可能な地球環境保護活動と社会貢献活動に取り組みながら、次世代リサイクル事業の経営を創造してまいります。



2011年度活動報告

2011年
9月

「第24回経営者研修会」実施

9月16～19日(4日間) 東京新木場・BumB東京スポーツ文化館にて次期オーナーを対象とした研修会。

10月

韓国自動車リサイクル事業者と交流会

10月7日 本部会議室

「第7回NGP協同組合通常総会」

10月28日福岡・ヒルトン福岡シーホークにて通常総会を開催。

「NGP創立25周年記念祝賀会」開催

1985年に「西日本グッドパーツグループ」としてスタートして25周年を迎えたことを記念して10月28日福岡・ヒルトン福岡シーホークでの通常総会後「NGP25周年記念祝賀会」を開催。記念事業として全国の小学生を対象に実施した絵画コンクール(テーマ:きれいな地球のために)の優秀作品を披露。

子供たちにいつまでも住みやすい地球を残そうというNGPの願いを込めたロゴマークです。青い地球は強い結束と笑顔で自動車リサイクルの普及・発展に挑戦し続ける組合員の笑顔であり同時に地球と子供たちの笑顔になることを表わしています。



11月

第17回日本EVフェスティバル・NGP組合員2社がEV耐久レースに上位入賞

11月3日・茨城県・筑波サーキット(株)エコブリッジ(青森県八戸市)リチウムイオン電池部門2位、(株)茨城オートパーツセンター(茨城県小美玉市)鉛蓄電部門4位

「第13回ハイブリッドカーセミナー」を実施

11月14～15日(2日間) 静岡裾野市・あいおいニッセイ同和自動車研究所

12月

「第21回基礎研修会」実施

12月13～16日(4日間) 東京新木場・BumB東京スポーツ文化館にて全国の新社員を対象とした研修会。



日本最大の環境展「エコプロダクツ2011」出展

12月15～17日(3日間) 東京ビッグサイト・来場者18万人。

2012年
2月

「第3回初級生産管理者・初級フロントマン研修会」実施

2月23～25日(3日間) 東京晴海・晴海グランドホテル・商品規格、品質規格の基本研修。

3月

「第10回国際オートアフターマーケット」に出展

3月14～16日(3日間) 東京ビッグサイト・リユース部品の業界統一の保証基準をPR。

4月

「第14回ハイブリッドカーセミナー」実施

4月9～10日(2日間) 静岡裾野市・あいおいニッセイ同和自動車研究所。

5月

「第6回フロントSTEP UP研修会」実施

5月17～18日(2日間) 静岡裾野市・あいおいニッセイ同和自動車研究所。

「東日本大震災車両処理活動終了式典」に出席

5月18日 仙台市ウェスティンホテル 主催:日本ELVリサイクル機構。ELV機構を中心とした東日本大震災の被災車両の撤去・回収処理が終了したことにより、行政・自動車リサイクル事業の関係者にて活動の区切りをつける式典に出席。

6月

「第22回基礎研修会」実施

6月14～17日(4日間) 東京新木場・BumB東京スポーツ文化館。

韓国整備事業者組合視察団の訪日施設見学などの受け入れ

6月27～29日 NGPは韓国・京畿道自動車検査事業者組合の視察団を受け入れ、自動車リサイクル工場、リサイクル部品を活用する修理工場の施設見学をご案内し、わが国の自動車リサイクル事業への理解を深めていただきました。

7月

「第21回初級営業マン研修会」実施

7月27～29日(3日間) 東京新木場・BumB東京スポーツ文化館にて営業マンとしての心構えと基本マナーの研修会。

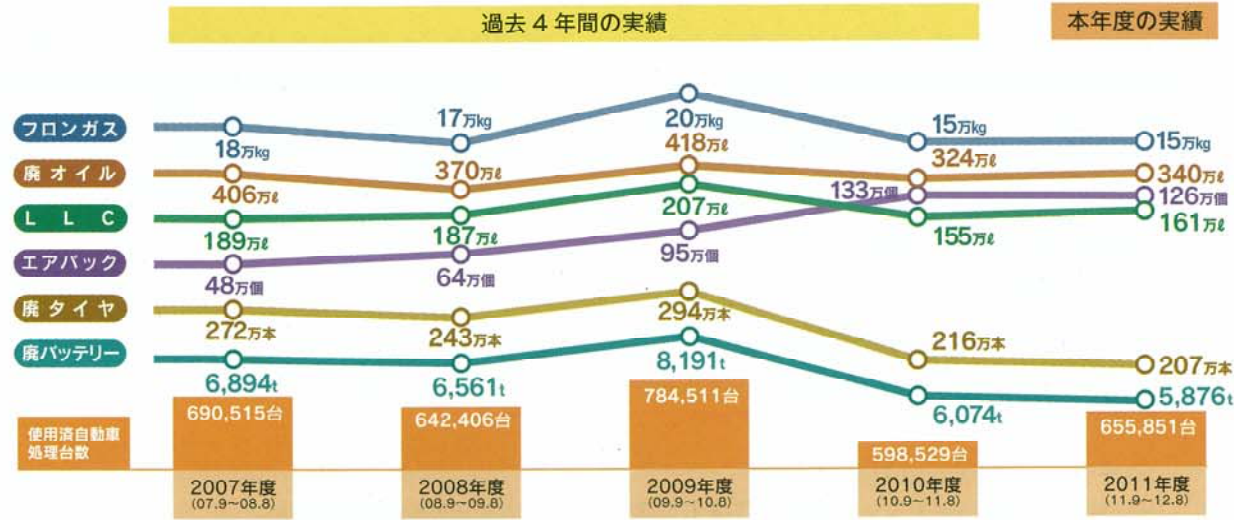
8月

「第22回中級研修会」実施

8月6～10日(5日間) あいおいニッセイ同和自動車研究所にて全国の中堅社員を対象としたリーダー研修会。



使用済み自動車の適正処理実績



リサイクル部品の生産・販売実績



支部	使用済み自動車処理台数(台)					フロンガス回収処理(kg)					廃オイル回収処理(ℓ)				
	上期	下期	合計	前年	前年比%	上期	下期	合計	前年	前年比%	上期	下期	合計	前年	前年比%
北海道	19,721	24,938	44,659	46,874	95.3	4,684	6,550	11,234	12,926	86.9	94,252	125,545	219,797	215,887	101.8
東北	53,715	66,664	120,379	99,925	120.5	7,710	9,677	17,387	18,086	96.1	260,111	366,380	626,491	555,845	112.7
北関東	47,465	67,602	115,067	103,710	111.0	13,035	18,237	31,272	31,092	100.6	252,993	356,153	609,146	568,528	107.1
南関東	23,870	29,387	53,257	51,997	102.4	6,102	8,150	14,252	15,811	90.1	105,217	126,365	231,582	239,480	96.7
北陸	18,925	24,260	43,185	41,857	103.2	4,647	6,615	11,262	9,742	115.6	116,670	161,330	278,000	254,235	109.3
東海	30,249	39,282	69,531	62,769	110.8	6,745	8,495	15,240	15,656	97.3	135,839	177,927	313,766	323,460	97.0
関西	25,631	31,489	57,120	49,724	114.9	6,872	8,477	15,349	14,106	108.8	90,032	106,720	196,752	184,710	106.5
中四国	42,177	56,647	98,824	91,528	108.0	9,698	14,076	23,774	24,755	96.0	271,137	394,255	665,392	634,061	104.9
九州	22,048	31,781	53,829	50,145	107.3	4,673	7,535	12,208	12,814	95.3	108,267	155,692	263,959	266,622	99.0
合計	283,801	372,050	655,851	598,529	109.6	64,166	87,812	151,978	154,988	98.1	1,434,518	1,970,367	3,404,885	3,242,828	105.0

支部	LLC回収処理(ℓ)					エアバック展開・回収処理(個)					廃タイヤ処理(本)				
	上期	下期	合計	前年	前年比%	上期	下期	合計	前年	前年比%	上期	下期	合計	前年	前年比%
北海道	63,708	74,553	138,261	143,736	96.2	32,685	48,975	81,660	75,615	108.0	73,270	94,788	168,058	213,226	78.8
東北	132,475	135,608	268,083	237,917	112.7	92,531	112,894	205,425	148,210	138.6	172,317	172,842	345,159	330,273	104.5
北関東	150,755	229,287	380,042	390,613	97.3	98,111	159,944	258,055	201,413	128.1	152,260	215,033	367,293	355,195	103.4
南関東	76,403	87,207	163,610	147,608	110.8	44,961	67,927	112,888	102,872	109.7	83,833	123,947	207,780	201,625	103.1
北陸	44,530	58,990	103,520	97,595	106.1	33,242	52,835	86,077	66,746	129.0	69,035	87,378	156,413	172,758	90.5
東海	75,566	98,874	174,440	183,094	95.3	53,622	80,077	133,699	112,525	118.8	73,470	88,136	161,606	205,618	78.6
関西	40,692	55,040	95,732	64,342	148.8	43,364	51,887	95,251	145,529	65.5	62,038	69,199	131,237	158,167	83.0
中四国	81,967	111,755	193,722	195,615	99.0	73,954	116,698	190,652	326,124	58.5	149,673	209,851	359,524	353,540	101.7
九州	29,519	62,221	91,740	91,021	100.8	36,043	64,989	101,032	152,186	66.4	73,332	107,553	180,885	167,332	108.1
合計	695,615	913,535	1,609,150	1,551,541	103.7	508,513	756,226	1,264,739	1,331,220	95.0	909,228	1,168,727	2,077,955	2,157,734	96.3

支部	廃バッテリー処理(kg)				
	上期	下期	合計	前年	前年比%
北海道	245,378	277,484	522,862	522,621	100.0
東北	321,221	399,066	720,287	854,623	84.3
北関東	452,420	721,470	1,173,890	1,072,669	109.4
南関東	212,854	242,654	455,508	542,899	83.9
北陸	162,974	241,164	404,138	415,101	97.4
東海	391,400	426,734	818,134	846,720	96.6
関西	203,293	281,885	485,178	379,689	127.8
中四国	347,917	516,723	864,640	934,819	92.5
九州	147,466	284,573	432,039	505,124	85.5
合計	2,484,923	3,391,753	5,876,676	6,074,265	96.7

VOICE ● 組合員の声

生産現場の作業効率化アップ

今期は生産現場の作業効率化UPを目標に、NGPシステムに様々なバージョンアップを実施しました。主だった内容としては、入庫前の営業活動ツール(PDA)で営業効率をUP。バーコードによる在庫管理システム及び車輦工程管理システム、タブレットPCによるダイレクト入力システムで現場効率をUP。自動車リサイクル法で定められた使用済車両の処理工程を管理する電子マニフェストにも連携し、抹消登録時に使用するOCR印字システムで車輦事務効率をUPしました。



システム委員長
牛場 健次
副リサイクルマネージャー
代表取締役

省エネとコスト削減

リサイクル部品を生産し販売すれば当然コストは発生します。これからのテーマは省エネでコストを下げ、より多くの部品を安心して利用してもらうことです。弊社では梱包材料の見直しや、商品棚から入出荷する際の効率など常日頃から改善しています。より良い商品をより正確により早く！というNGPの精神は社員全員が意識し、日常業務で成果を挙げています。限られた時間でどれだけの仕事が出来るかがコスト削減と思考、安価で安心して利用できるリサイクル部品をこれからも生産、販売して行きたいと思っております。



総務広報委員長
胡 定見
機エビス 代表取締役

NGPパーツとは

NGPグループ各社では毎日の朝礼や会議の前に必ず声を合わせ三大信条を唱和します。この中に「より良い商品を、より正確に、より早く」があります。NGPグループ各社の生産者、フロントマンが日々の仕事の中で、このことを追求し続ける事によりNGPパーツはブランドになっています。これからも自動車業界の新技術、物流業界の変化等に対応しながら「NGPパーツは安心して利用できる、NGPパーツを利用して良かった」と思ってもらえるような商品の提供に努めます。



商品管理委員会担当理事
安澤 康博
備安澤商店 代表取締役



使用済み自動車のリサイクル

自動車リサイクルを推進して循環型社会構築を目指します

全国で年間約400万台の使用済み自動車が廃車になっています。これを一台1トンの廃棄物で計算すると約400万トンで、国内の年間廃棄物量約7,000万トンのおよそ6%になり、廃車はリサイクルされないと、とりわけ大量な廃棄物として大きな社会問題になります。以前に自動車の不法投棄・不適正処理が社会問題化したこともあり、それを防止してフロン類・エアバッグ類の処理や、資源を回収する目的で法制化されたのが「自動車リサイクル法」(2005年施行)です。この法律により自動車の所有者・引

取事業者・メーカー・輸入業者の各々が廃車の適正処理と管理に責任を持つことになり、近年使用済み自動車の回収率は90%を超え、適正処理する私たち自動車リサイクル事業者の役割はますます重要になりました。適正処理とは最初に燃料(ガソリンなど)、エンジンオイルなどの油類、ラジエターの冷却水(LLC)、カーエアコンの冷媒ガスを抜き取り、エアバッグの展開処理後、解体され再生可能部品を取り出し、残った車両本体部分はプレスで塊にしてシュレッダーにかけ再資源化を図ります。

自動車は鉄・アルミなどの有用な金属が車両の約70%を占め、車両総重量の約80%は資源として再利用されています。

自動車リサイクル法

自動車リサイクル法は使用済みの車両の積極的なリサイクル、適正処理を行うために、車両の所有者や自動車メーカーなどの役割を定めた法律で、2005年1月1日に施行されました。

それぞれの役割は?

クルマの所有者

リサイクル料金を支払い、使用済み自動車を引取事業者へ引き渡します。

引取事業者

所有者からクルマを引き取り、フロン類回収業者、解体業者に引き渡します。

- フロン類回収事業者 ●解体事業者
 - 破砕事業者
- 各事業者は、適正に回収・処理します。

自動車メーカー・輸入業者

自社製品のフロン類、エアバッグ類、ASRを引き取り、リサイクルします。

リサイクル法の対象となる3品目

フロンガス

カーエアコンの冷媒として使われているフロン類は大気に放出すると、オゾン層の破壊や地球温暖化の要因になるため、適正な処理(破壊)をする必要があります。また、回収処理する事が自動車リサイクル法では義務づけられています。



エアバッグ

エアバッグ類はガス発生剤を使用しており爆発性があるため、使用済み自動車のリサイクルを適正かつ確実に行うため、解体業者は使用済み自動車を引き取ったときは、「エアバッグ類」を適正に処理する必要があります。また、回収、及び破壊処理する事が自動車リサイクル法では義務づけられています。



シュレッダーダスト

車は、鉄、アルミ等の金属が多く使われているため総重量の80%がリサイクルされますが、残り20%は解体、破砕後に発生するゴミとなります。このゴミは、自動車メーカー等が指定する最終処分場にて適正に処理・再利用されています。



それ以外の廃棄物の回収

廃オイル・LLC

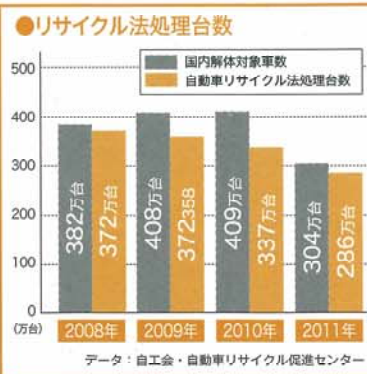
土壌汚染・水質汚濁の原因である廃オイル・LLC等は丁寧に回収しなければなりません。また、浄化槽設備を充実させ、工場敷地外への流出防止に努め、土壌汚染・水質汚濁の影響調査を実施するように指導しています。回収後は、適正引取業者に処理委託をおこない、引取業者証明書によってその状況を把握しています。

使用済み自動車

事故による全損車両やリースアップ車両を積載車両にて引取りします。引取・処理には自動車リサイクル法の引取業者、フロン類回収業者、解体業者、破砕業者の登録・許可が必要です。当組合では、使用済車両適正処理を実施する全国ネットワークとして、電子マネーフェスト(移動報告)による管理を徹底しています。

レアメタル・レアアース

電子化の進んだ乗用車、ハイブリッド車、今後の電気自動車にはモーターや電池にさまざまなレアメタル(希少金属)、レアアース(稀土類)が使われ、資源のないわが国としては廃車から回収・再資源化することが大きな課題になっています。



廃車の買い取り「廃車王・くるマック」

廃車とリサイクル部品の専門店 地域で身近な「くるマック店」

NGPは使用済み自動車をユーザーから直接買取りする「廃車王・くるマック店」を全国約150拠点で営業展開しています。不要になった使用済み自動車の買取・引取りから廃車手続き・解体処理までの業務を「お客様第一」の一貫したサービス体制で、毎年全国で約1万台以上の使用済み自動車を引取っています。廃車に際してはリサイクル事業の社会的・環境的な業務をユーザーに理解していただき、自動車リサイクル法・廃車の適正処理などの説明をすることが重要になりました。使用済み自動車は多様

な車両(事故車・走行不良車・水没車・低年式車)を有用な資源として回収し、一部は良質な自動車リサイクル部品に再生され補修市場に供給されています。

NGPは「廃車王・くるマック店」を廃車引取りの全国窓口として、また良質なリサイクル部品の生産に欠かせない仕組みとして業務拡大への取組みを進めています。さらにリサイクル部品の利用相談、部品探し(NGP全国部品在庫情報ネットワークの検索)、部品販売、修理工場の紹介などのサービスを提供し、地域に共生する利便性の高い店舗を目指してリサイクル部品の啓蒙・販売促進などの社会ニーズに応えていきます。

「廃車王・くるマック」のご案内

不要なクルマの安心買い取り
リサイクル部品の販売
(在庫150万点から検索サービス)

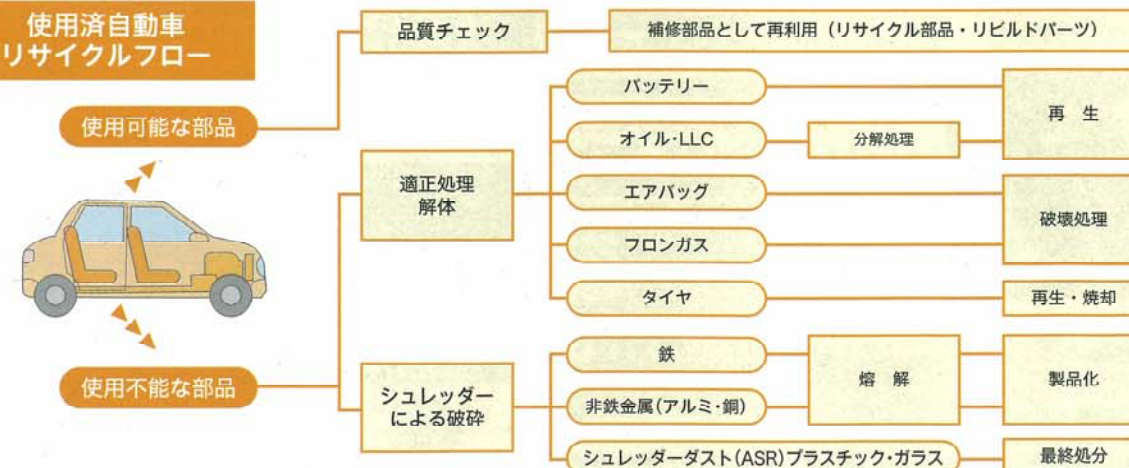


どんなお車でも
お引取りします



- 廃車無料見積** 使用済み自動車の買い取り価格・リサイクル費用などの提示
- 廃車引取り** こちらからお引取りに伺います(廃車手続き書類作成)
- 適正処理・再資源化** 組合員工場での適正処理と生産(検査・登録・販売)

使用済み自動車リサイクルフロー



自動車リユース(リサイクル)部品※の生産

高度なリサイクル技術によって 良品の生産率をアップします

良質なリサイクル部品を安価にお届けするために、NGPはたゆまない努力と探究心で部品生産を展開しています。自動車業界はハイブリッドカーの普及、電気自動車の登場など大きな変化を遂げつつあります。自動車の進歩から自動車部品も複数の素材が複雑な構造の中に使用され、部品の取扱い、異物の除去、資源の区分けなどリサイクル率を左右する専門性の高い技術が必要になっています。そのためNGPはリサイクル技術向上に役立つ部品情報を集約する「共有情報の電子化」を推進して、自動車

リサイクル部品の生産に必要な部品情報を、NGP組合員ネットワークシステム(NGPシステム)に蓄積し、個別車種・個別部品の取扱いにも対応する情報を全組合員に開示しています。これにより部品クレームも一元管理され、製品の安全性・信頼性を大きく高めることになりました。またこのシステムは組合員企業の熟練技術者の知識やノウハウを吸収し、データベースに蓄積してNGP全体のリサイクル技術のレベルアップが図れると考えています。さらにNGPは安全で効率的な部品回収に向け、メーカー・業界の協力を得て、組合員向け生産研修会・ハイブリッドカーセミナーを毎年定期的に行い、さらなる技術革新を図っています。

NGP自動車リサイクル部品生産工程



1 引取り

NGP組合員は、全社がリサイクル法の許可を取得した企業ですので安心してお任せください。速やかに車両を引取いたします。



2 入庫・検査

入庫された車両はすべてコンピュータに入力されます。このコンピュータネットワークが全国を結んでいる「NGPシステム」です。すべての情報はこのNGPシステムに登録されています。



3 生産

フロン(R12・R134)、各オイル、LLC等を適正に回収した後、1点でも多く使用可能な部品を取り出します。その後スチーム洗浄・検査し、1台から平均23点の部品がリサイクルされます。特に近年はレアメタルなどの希少金属の回収が注視されています。我が国にとっての課題である希少金属のリサイクルの一翼を担う大きな役割になります。



4 美化・品質チェック

取り外した部品は1点1点厳正な検査を行います。NGPの商品化基準に合った物のみが商品として生産され、また機能部品は作動チェック・テスター機器等を使用して、より高度な品質を生産しています。これらすべての部品には、信頼の証である「NGPギャランティ・シール」が貼付されます。



5 登録・在庫管理

検査基準に合格した商品が倉庫の棚に納められます。NGPシステムには、チェックした商品の状態を写真付きで細部まで登録し、いつでもスピーディに出荷できるように管理・保管されています。



6 受注・梱包・発送

ご注文時にはNGPシステムを活用し、全国約150万点の在庫をリアルタイムで即座に検索。国産車・輸入車を問わずあらゆる部品に対応します。丁寧に梱包されたリサイクル部品はご注文の翌日には納品されます。

(一部、発送により翌日お届けできない場合があります)

※自動車リサイクル部品は大きく分けて、取り出してそのままの部品を利用する「リユース部品(中古部品)」と、オーバーホールして再商品化した「リビルド部品(再生部品)」の二種類となります。NGPでは主にリユース部品を生産・販売しています。

自動車リユース(リサイクル)部品の保証基準

細心の点検で安心な製品を提供する「NGP検査基準」


リユース部品の「業界共通保証基準」は2011年5月に日本自動車リサイクル部品協議会傘下12団体で実現し、業界での大きなインパクトになりました。

保証基準はエンジン・ミッションの主要機能部品、準主要機能部品、その他部品、外装・内装部品の4つのカテゴリーに分け、代品交換や返金に応じる期間・走行距離を定めるとともに、主要機能部品、準主要機能部品について整備事業者に組み替え工賃の保証を明示しました。また品質基準としてはそれぞれの部品ごとにチェックするポイントの共通化も図られました。自動車部品には人命の安全を託す重要な部品がたくさんあり、リユース部品も厳格な基準と妥協のない検査が当然必要で、保証基準の共通化は自動

車補修市場での信頼を一層高めることになりました。

しかし共通化した基準は業界の最低基準で、例えばNGPではエンジン・ミッションについては6ヶ月・1万kmまでという高い保証を従来から設けています。NGPは発足以来、生産技術の向上と検査の厳格性を刷新し、改善を繰り返しユーザーに安全に使用できるリユース部品を提供しています。

「信頼の証」ギャランティシール



NGPのすべてのリユース部品に品質を保証するギャランティシールを貼付し、厳格な「NGP検査基準」を合格した製品の信頼を証明しています。
※このシールにヘルマークをつけて子供たちの教育を支援しています

NGPリビルド部品延長保証制度

NGPはリビルド部品業界に提供している部品の一部に部品メーカーの定める保証期間に上乗せした「プラス延長保証制度」を実施しています。



延長保証シール

NGPリユース部品の保証基準(抜粋)

エンジン廻り部品		ボディ部品
エンジン 保証期間: 出荷日より6ヶ月間、その期間内で、走行距離10,000kmまで 保証内容: 代品交換と工賃負担	キャブレター 保証期間: 出荷日より3ヶ月間、その期間内で、走行距離3,000kmまで 保証内容: 代品交換と工賃負担	ドア 保証期間: 商品確認期間: 商品到着後7日以内 保証内容: 代品交換または返金(返品)の受付
ターボチャージャー 保証期間: 出荷日より3ヶ月間、その期間内で、走行距離3,000kmまで 保証内容: 代品交換と工賃負担	噴射ポンプ 保証期間: 出荷日より3ヶ月間、その期間内で、走行距離3,000kmまで 保証内容: 代品交換と工賃負担	バンパー 保証期間: 商品確認期間: 商品到着後7日以内 保証内容: 代品交換または返金(返品)の受付
オルタネーター 保証期間: 出荷日より3ヶ月間、その期間内で、走行距離3,000kmまで 保証内容: 代品交換と工賃負担	駆動系部品 トランスミッション 保証期間: 出荷日より6ヶ月間、その期間内で、走行距離10,000kmまで 保証内容: 代品交換と工賃負担	フロントフェンダー 保証期間: 商品確認期間: 商品到着後7日以内 保証内容: 代品交換または返金(返品)の受付
スロットルボディ 保証期間: 出荷日より3ヶ月間、その期間内で、走行距離3,000kmまで 保証内容: 代品交換と工賃負担	パワステポンプ 保証期間: 出荷日より3ヶ月間、その期間内で、走行距離3,000kmまで 保証内容: 代品交換と工賃負担	トランクリッド 保証期間: 商品確認期間: 商品到着後7日以内 保証内容: 代品交換または返金(返品)の受付
スターター/セルモーター 保証期間: 出荷日より3ヶ月間、その期間内で、走行距離3,000kmまで 保証内容: 代品交換と工賃負担	電装系部品 クーラーコンプレッサー 保証期間: 出荷日より3ヶ月間、その期間内で、走行距離3,000kmまで 保証内容: 代品交換と工賃負担	フロントガラス 保証期間: 商品確認期間: 商品到着後7日以内 保証内容: 代品交換または返金(返品)の受付

上記以外の製品の保証は「NGPリユース部品保証基準」に則ります

自動車リユース(リサイクル)部品の販売


「もっと多くのユーザーに」 利用促進活動を継続していきます

リサイクル部品は社会的意義から自動車リサイクル法施行後も大きく注目され、また「グリーン購入法*」の対象製品として行政の後押しにも支えられ市場での影響力も高まりました。リサイクル部品の低価格性から修理費用をなるべく安く抑えたいというニーズの広がりもあって、リサイクル部品を積極的に活用する自動車修理工場も増加しました。また自動車メーカーも補修部品として自らリサイクル部品の積極的利用を拡大しています。

しかし日本国内での自動車リサイクル部品市場は現在約1960億円(リユース部品1090億円・リビルト部品870億円/2009年)規模にとどまっています。リサイクル部品の普及は海外と比較してもいまだ低

水準で、欧米の利用率30~40%に対して日本はわずか5%程度といわれ、まだまだ活用されていないのが現状です。車と環境問題ではすでに法整備、企業の努力も進展し、循環型社会実現も急がれ、NGPは以前にも増して自動車リサイクル部品の信頼と、ユーザーの積極活用を図るための「お客様満足度」をさらに高め、環境配慮型カーライフを提案する啓蒙PRを進めなければなりません。

※「グリーン購入法」環境にやさしい製品を選定して、国の調達に関しては、その製品を優先的に選択し、地方自治体は努力義務、事業者・国民にも一般的な責務があると定めた法律(2001年4月施行)



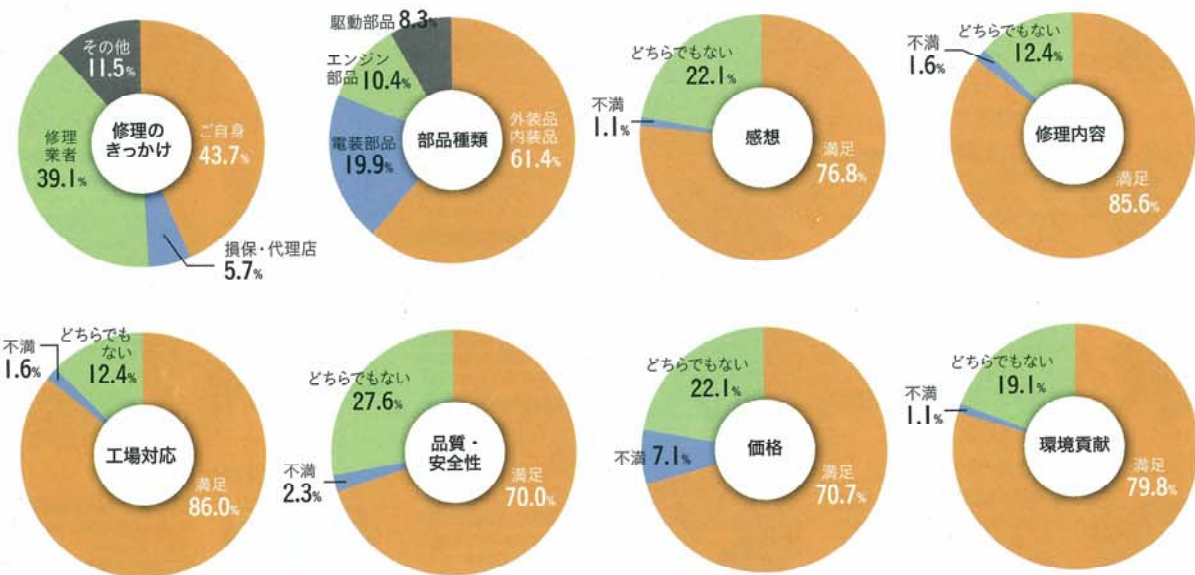
リサイクル部品活用推進店

リサイクル部品活用推進店

ユーザーとの窓口になる全国1万4千社の優良修理工場に「リサイクル部品活用推進店証」を発行して自動車リサイクル部品の啓蒙と利用の推進に努めています。

日本損害保険協会実施/2011年11月~12月(回答者数3,224名) リサイクル部品活用推進キャンペーンアンケート集計結果(抜粋)

アンケートの結果概念(全体について) ●アンケート回答者のうち、修理経験者が96%であった。 ●リサイクル部品を活用して修理したきっかけは、修理された方「ご自身の意思」が一番高かった。 ●活用されたリサイクル部品は、外装品・内装品が6割を占め、一番高かった。 ●リサイクル部品の活用については、8割弱の方が満足と答えている。 ●その他、リサイクル部品の活用に関しては、修理内容、工場の対応、環境への貢献度については満足度が高いが、修理期間や価格については満足度が比較的低い傾向にあった。



アンケートは2011年10月に公表された社団法人日本損害保険協会のアンケートの調査結果の一部を抜粋しています。

自動車リユース(リサイクル)部品の在庫

中低年式車の部品在庫が豊富です

お客様の中にはリユース部品は在庫が少なく、なかなかそろわないと思っている方もおられると思います。実際、高年式車では車が新しいこともあってリユース部品として入手困難なケースもあるものの、中低年式車になるとリユース部品の在庫は豊富です。昨年、保険事故による車両修理に対してリユース部品の在庫はどの程度そろっているか、需給のマッチング調査が実施されました。調査ではワンボックス車、コンパクトカー、軽自動車各1モデルを取り上げて、ある大手損保の事故修理データとリユース部品の在庫登録データを照らし合せて需給のマッチングを確認しました(下表参考)。在庫登録データはNGPのほか2グループから提供されました。この結果からワンボックス車は使用期間が長いので、部品の取れる車がリサイクル業者に回るのに時間がかかるのがわかります。また事故車から部品を取るために、コンパクトカー・軽自動車を含めてフロント、リアバンパーのリユース部品在庫は不足がちになります。ユーザーも新しい車の修理には新品部品

を使いたい要望は強いはずですのでやむをえないと思いますが、調査結果が示すように中年式以降の部品在庫は意外と揃っているということをお客様には理解していただきたいと思います。

NGPは研修を通じてフロントマンのスキルアップに努めており、たとえばフロントバンパーの背後にある部品まで、修理でニーズがあるかどうかをお客様に直接お尋ねしたりしています。「あるはずが無い」と決めつけないでお問合せください。全国ネットワークで修理に必要な部品を探します。(NGP常備在庫は約150万アイテム) また部品在庫のあり方などでご要望があればNGPは真摯に受け止めて、対応いたします。



保険事故車に対してリユース部品の供給が潤沢なことが調査で証明

調査対象車	対象車販売期間	供給を満たす部位	調査部位
ワンボックス車	2006年以降	A フロントバンパー B リアゲート C ボンネットフード D リアバンパー E 右テールランプ F 右フロントドア	C D E F
	2000~2006年		D E F
コンパクトカー	1990~2000年		D E F
	2010年以降		B C D E F
	2002~2010年		A B C D E F
軽自動車	1992~2001年		A B C D E F
	2003~2008年	D E F	
	1998~2003年	A B C D E F	
	1993~1998年	A B C D E F	

※日本自動車リサイクル部品協議会資料から

リユース部品の在庫情報「NGPダイレクトシステム」

「NGPダイレクトシステム」は全国の自動車修理工場とNGPを結ぶ部品流通オンラインシステムで、NGPの保有するリユース部品がリアルタイムでインターネット検索できます。簡単な操作でスピーディな在庫確認と形状・程度(画像付き)などの必要な部品情報を詳細に掲載しています。ご利用には登録によるID・PWが必要で、検索から注文・納品までを一括管理しています。



NGPの事業活動におけるCO₂削減

環境経営に関する方針

NGPにとって環境マネジメントは、事業の本質に関わる重要課題と認識しています。常にお客様の満足と安心を優先した業務を行い、持続的循環社会構築に向け、事業活動のあらゆる場面において環境保全の意識を高め、以下の基本方針に取り組んでいきます。

- ①法令遵守 ●環境法規制およびその他の要求事項を遵守します
- ②省エネルギー・省資源 ●事業活動で消費するエネルギー・水等の使用量を削減し、省エネルギーを推進します●生産活動で使用する梱包材等の省資源・効率化を推進します●事業活動で使用する紙等消耗品の使用量を削減します
- ③環境負荷・汚染の低減 ●事業活動で発生する廃棄物のリサイクルを推進します●事務用品のグリーン購入を推進します

④地域との共生 ●環境保全活動に積極的参加して地域社会への貢献と調和に努めます

NGPは環境関連規制を遵守する管理の徹底に努め、環境マネジメントの適切な運用を確認するため省エネルギー推進活動報告による内部監査を定期的実施しています。

事業活動における投入資源・排出環境負荷

NGPは使用する資源・エネルギーの投入量 (IN PUT) と排出量 (OUT PUT) を定量的に収集・分析することで、総合的で効率的な環境負荷低減に活用しています。電力がエネルギー消費に大きな割合を占めることから、電力使用量の削減に重点をおいて取り組みを進めています。また内部監査により「是正処置が必要」「記録の記入不備」「環境マネジメントの理解に誤解」などの不備があれば、それぞれ適切に改善を行います。

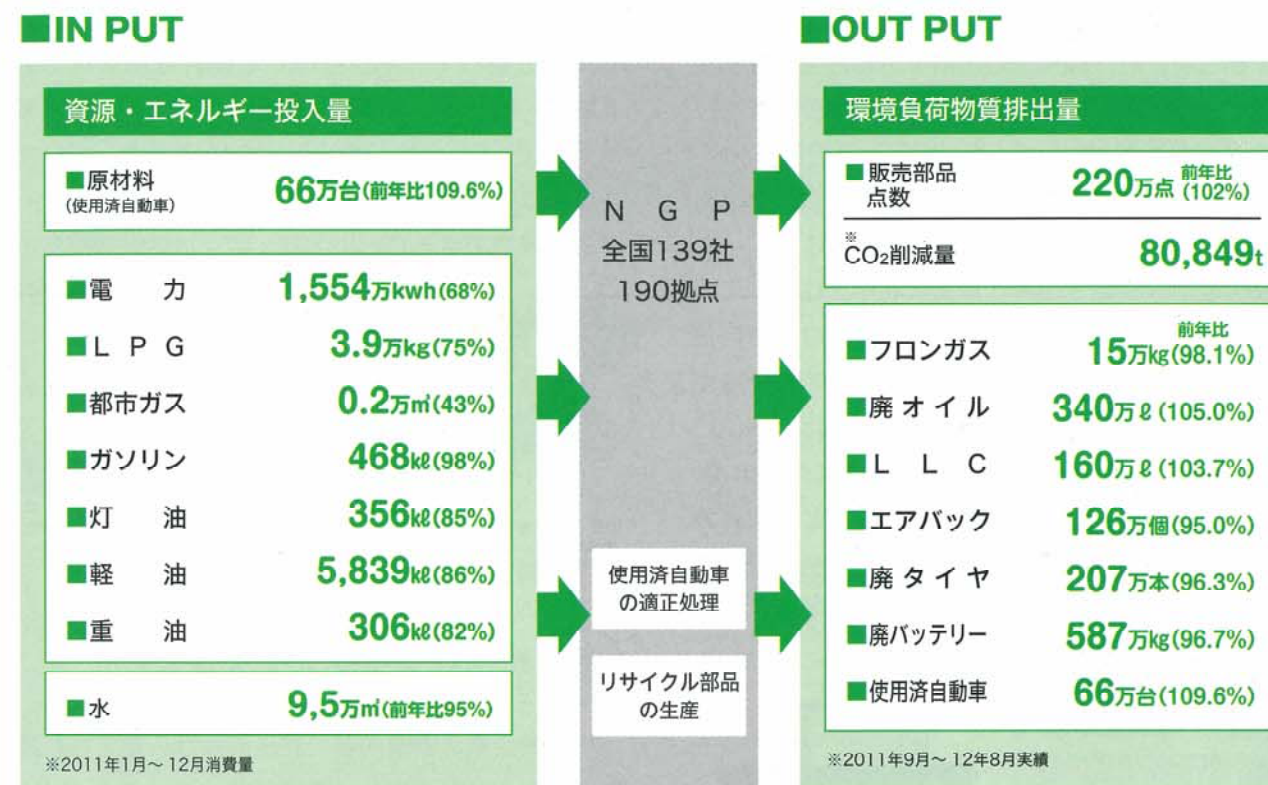
ISO14001 認証取得の推進

ISO14001 認証取得会社一覧

2012年9月24日現在

取得会社名	登録日	取得会社名	登録日	取得会社名	登録日
株社商会	2003年 1月24日	株CRS埼玉	2005年 5月27日	南東和	2003年 7月23日
株アシスト・フクダ	2003年 1月15日	メタルリサイクル株パーツセンター	2008年 9月18日	エコテック/株	2004年 1月28日
株マテックELV石狩	2001年 6月 5日	メタルリサイクル株千葉パーツセンター	2008年 9月18日	株エビス	2003年 9月12日
株エルバ北海道	2005年 3月29日	株マルトシ青木	2003年 1月20日	株山陰エコ・リサイクル	2005年 2月10日
株鋼路オートリサイクル株	2006年12月27日	株オートパーツ片岡	2004年12月24日	南みうら	2003年 2月28日
南むつパーツ	2004年12月17日	株大橋商店	2003年 1月27日	南國実商店	2004年 1月 9日
株福島リパーツ	2004年12月24日	オレンジパーツ平成	2006年 3月16日	株西川商会	2004年10月22日
株永田プロダクツ	2004年 1月14日	株アンドーカーパーツ	2006年 3月14日	島根オートリサイクルセンター	2006年 8月 8日
株ナプロフクシマ	2003年 3月18日	株ツクダ自動車	2004年12月17日	株パーツライン	2003年 1月26日
株エコブリッジ	2004年12月20日	株ハセ川自動車	2003年 1月21日	株オートパーツ伊地知	2001年 6月13日
株アイエス総合	2004年10月25日	津田鋼業株	2003年 1月23日	株グッパ・福岡	2003年 3月12日
株青南商事盛岡支店アルトレック矢巾	2002年 2月27日	南堀川自動車商会	2003年10月22日	株ユービー宮崎	2003年 3月28日
株青南商事 弘前支店アルトレック青森	2002年 2月27日	株メタルオート北陸	2005年 3月24日	株アル・トーヨー	2004年11月25日
株青南商事 酒田支店アルトレック酒田	2002年 2月27日	株カーパーツコンドウ	2010年 6月24日	オートバックス ニホウ	2004年12月 9日
株青南商事 八戸支店アルトレック八戸	2002年 2月27日	株カンザキ	2003年 3月20日	株エイ・ティ・エム	2003年 3月18日
株青南商事 仙台支店アルトレック塩竈	2002年 2月27日	株多田自動車商会	2003年 3月18日	WARC西日本オートリサイクル株	2003年 1月30日
株栃木パーツ	2004年 6月 7日	株多田自動車商会大坂営業所	2003年 3月18日	株オートリサイクルナカシマ福岡	2004年 9月24日
株共伸商会	2003年12月11日	株堀尾自動車部品	2003年 2月25日	株タバタ商会	2004年11月25日
エコリサイクル共伸生産工場	2003年12月11日	株草山パーツ	2003年 4月25日		
南黒崎部品	2003年 1月21日	株桜井	2003年 4月25日		
株茨城オートパーツセンター	2003年 2月21日	株福山セコ	2010年 5月 7日		
南田崎商店	2003年12月 3日	株クレスタパーツ(株中村解体)	2003年 2月26日		
株拓殖商会	2003年12月15日	南山陰UP販売	2007年 8月23日		
株しのぶや	2003年 2月28日	株桃太郎部品	2003年 2月20日		
株ユーパーツ	2002年 7月26日	株オートパーツ幸城	2003年 3月23日		
カースチール株	2004年 8月 4日	株オートパーツ新居浜	2003年 2月27日		
株3R	2002年 7月10日	岡崎車輛部品株	2003年 2月28日		
				●システム賛助会員	
				丸利伊丹車輛株北広島支店	2004年 6月21日
				株オートパーツ三伸	2005年 3月22日
				石上車輛株恵庭店	2004年 5月19日
				株ライラック車輛	2005年 3月22日
				九州メタル産業株鳥栖リサイクルセンター	2003年12月24日
				取得会社合計数(含登録拠点)	77拠点

環境エコバランスデータ(2011年度)



※CO₂削減量の数値はリサイクル部品のみ(新品・社外新品部品を除く)を対象としています。

2011年NGP組合員事業所エネルギー消費量

※2011年1月～12月

支部	電力(kwh)	水(m ³)	LPG(kg)	都市ガス(m ³)	ガソリン(kℓ)	灯油(kℓ)	軽油(kℓ)	重油(kℓ)
北海道	714,276	4,835	562	63	23	121	366	4
東北	4,261,331	19,885	11,444	97	115	108	939	0
北関東	4,238,092	21,922	6,072	1,440	76	26	1,037	92
南関東	609,184	8,760	2,986	445	61	10	292	0
北陸	831,105	4,858	465	0	12	22	641	12
東海	1,192,298	10,329	4,288	0	60	17	527	0
関西	773,180	4,671	1,658	263	30	10	537	41
中四国	1,907,535	14,261	8,664	28	61	34	1,065	130
九州	1,010,298	6,359	3,409	0	31	8	435	27
合計	15,537,299	95,880	39,548	2,336	468	356	5,839	306
昨年度合計	22,778,922	100,465	52,886	5,382	480	418	6,713	373
CO ₂ 排出量(kg)	8,623,201	34,517	118,922	4,859	1,085,774	886,365	15,296,996	830,122
昨年度実績	12,642,302	36,167	159,029	11,194	1,113,980	1,039,661	17,587,636	1,009,852
CO ₂ 排出量合計	26,881t							
昨年度合計	33,600t							

リターナブル梱包材の利用拡大

リターナブル梱包材の活用は段ボールなどの使い捨て梱包材から、繰り返し使用できる梱包材による廃棄物の削減と製品配送時のCO₂排出の減少、またリユース部品の環境価値を高めることを目的にNGPが業界の先頭を切って2008年より取り組みを始めました。「中身も箱もECO主義！」をモットーに日々の地道な開発・改善と普及・利用を拡大しています。ドア・フェンダー用、バンパー用はすでに普及して大きな環境効果をあげ、片道のみでの使用ができない段ボールと比較するとCO₂削減は10分の1から5分の1にまで削減できている計算になります。

エンジン用など、開発の可能性のある梱包材のすべてに挑戦していきます。



試作中の軽エンジン用のリターナブル梱包材



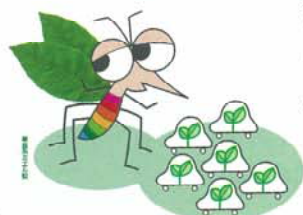
青い普通車用と緑の軽・小型車用のバンパー用リターナブル梱包材。普通車用はマフラーにも応用可能



ドア・フェンダー用梱包材。たたむとコンパクトなサイズになります。

NGPリユース部品の「CO₂削減効果の見える化」

NGPは「CO₂削減効果の見える化」をNGPシステムを改善して昨年からNGPの発行するすべての見積書・納品書・請求書に部品一点一点のCO₂削減効果[※]の数値を表記して、お客様にご提供しています。リユース部品の利用による環境貢献数値がユーザーに確認できることにより、広くリユース部品の活用を盛り上げ、CO₂削減のシンボルとして利用していただけると考えています。



リサイクル部品一点一点の環境貢献度(CO₂削減効果)を「見える化」してお客様にご提供しています。

※CO₂の削減効果とは、車を修理する際、新品部品で修理する場合とリサイクル部品で修理する場合のCO₂排出量の差を数値化したものです。一般社団法人日本自動車リサイクル部品協議会と早稲田大学環境総合研究センターとの産学共同研究による数値です。

環境リスクマネジメント

組合員企業の事業内容・立地条件から想定される環境リスク(環境事故・環境汚染・法令違反など)について未然の防止とリスクの最小化に取り組んでいます。特に排水・排出ガス、油類・化学物質の漏えい、土壌・地下水汚染、騒音・近隣からの苦情には適正に対応して①異常を発生させない②万一発生した場合は、被害の最小化と確実な対処、情報開示を方針として、日常点検・監視管理などを指導しています。

リサイクル部品利用によるCO₂削減効果の公表について

環境問題からリサイクル部品によるCO₂削減効果を早稲田大学環境総合研究センターとJAPRA(日本自動車リサイクル部品協議会)の共同研究で07年6月より公表することになりました。データはJAPRAシステムとNGPシステムの販売点数からCO₂削減の数値を毎月計測して発表します。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合販売より/2011年度分 ※販売点数はリサイクル部品のみ(新品・社外新品部品を除く)を対象としています。

	2011年 9月	10月	11月	12月	2012年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
販売点数	173,561	177,449	177,788	175,649	176,651	186,863	210,227	184,850	175,501	182,712	189,039	181,332	2,191,622
CO ₂ 削減値 (kg-)	6,357,853	6,523,199	6,619,590	6,656,687	6,538,367	6,845,335	7,714,327	7,075,409	6,540,211	6,624,900	6,862,835	6,489,937	80,848,648

(Ver.1105)

(Ver.1206)

リサイクル部品の環境負荷削減効果評価システム

- 1. 目的**
現在、地球温暖化防止問題は国際的課題であり、わが国でも「京都議定書」に基づくCO₂排出削減目標が決定されているが、その達成が困難視されている。またCO₂排出削減目標も大手企業の課題として受け取られており、中小企業は範疇外となっているのが現状。
自動車リサイクル部品の流通に携わる業態は中小零細企業が多いが、今回の産学協同研究の結果、リサイクル部品の流通そのものがCO₂排出削減に寄与することが数値的に明確になったことから、業界団体である日本自動車リサイクル部品協議会、加盟団体9グループ(部友会・システムオートパーツ・自動車補修部品研究会・日本パーツ協会・トータルカーリサイクルグループ・シーライオンズクラブ・ジャパンエコネット会・テクルスネットワーク・リビルド工業会全国連合会)及び有力会員であるNGP事業協同組合と協力して販売データを集約し「CO₂排出削減量」を公表、国が目指すCO₂削減活動の一助とすることにした。
- 2. 実施概要**
①早稲田大学環境総合研究センターは、日本自動車リサイクル部品協議会(以下リサイクル部品協議会という)の協力を得て、自動車リサイクル部品の環境負荷削減効果に関するデータベースの蓄積と個々部品の効果ポイント数値の精度を上げる。毎年の継続した研究テーマとする。
②リサイクル部品協議会は、JAPRAシステム及びNGPシステム上の
- 3. 今後の展開**
①早稲田大学環境総合研究センターとリサイクル部品協議会は、継続してリサイクル部品に関わる環境負荷低減の共同研究を続ける。
②早稲田大学環境総合研究センターとリサイクル部品協議会は、日本国内での「CO₂排出権取引」開始を想定、業界としての参画の検討及び「リサイクル部品のCO₂排出削減寄与」の位置付けを検討する。
③早稲田大学環境総合研究センターとリサイクル部品協議会は、「リサイクル部品の環境負荷削減効果評価システム」の国際的な普及・啓蒙を促す活動を進める。

毎月の販売データを集約・換算し、業界団体トータル「CO₂排出削減量」として公表していく。

③「環境に配慮したリサイクル部品」をキャッチとして、リサイクル部品に対する一般ユーザーへの幅広い認知度向上と普及の促進を図る。

④リサイクル部品協議会はリサイクル部品の環境負荷削減効果を表記した「ラベル」等を設定、協議会加盟会員企業が出荷供給するリサイクル部品の一層の品質向上とブランド化を目指す。

⑤最終的には、リサイクル部品供給業界と自動車整備業界(将来的には一般ユーザーも)が「リサイクル部品の活用が地球温暖化防止に役立っている」という共通の社会認識を共有できるように将来的な活用方を検討する。

主な自動車リサイクル部品(リユース部品)のCO₂削減量

外装内装部品	エンジン部品	電装部品	駆動系
フロントバンパー Assy 23.1kg	エンジン Assy 401.8kg	クーラーコンプレッサー 27.4kg	バッテリー 41.3kg
フロントウィンドシールドガラス ... 28.4kg	ターボチャージャー 19.6kg		
右ヘッドライト/ランプ 8.6kg	パワステパンプ 10.9kg		
右フロントフェンダーパネル 8.6kg	ラジエター 24.5kg		
右フロントドア Assy 97.3kg	スターターモーター/セルモーター ... 11.2kg	オートマチックトランスミッション(AT) ... 309.3kg	ステアリングラック & ピニオン 9.8kg
トランクリッド 35.3kg	オルタネーター/ダイナモ 15.9kg	右フロントドライブシャフト 31.3kg	右フロントナックル Assy 53.2kg
	マフラー Assy/マフラーキット 45.2kg	右フロントストラット Assy 79.9kg	

CO₂削減量とは.....車を修理する際、新品部品で修理する場合とリサイクル部品で修理する場合のCO₂排出量の差を数値化したものです。
※上記CO₂削減量は日本自動車リサイクル部品協議会グリーンポイントクラブと早稲田大学環境総合研究センターの産学共同研究による数値です。(Ver.1206) 国産車(1999年式、1500cc・4ドアセダンタイプの場合)の数値を参考にしています。

VOICE ● 組合員の声

一層のリサイクル部品の認知に向けて

NGPでは、毎年12月に東京ビッグサイトで開催される国内最大級の環境展であるエコプロダクツへの出展回数を重ね自動車リサイクルの仕組みとリサイクル部品の啓蒙活動に取り組んでいます。ここではおもに一般の方々への啓蒙に重点をおき、小学生から年配の方々まで、たいへん多くのお客様にNGPブースにお立ち寄り頂いております。今後ますます環境へ対する意識が高まる中、こうした活動を毎年積み重ねることにより、日本国内におけるリサイクル部品の認知され、その使用率が向上し、結果として環境保全活動に貢献できる事を望んでいます。



環境委員長
藤原 庸正
榊山セコ 代表取締役

環境保全への取り組み

使用済自動車の解体作業における適正な処理及びリサイクル部品の生産という作業工程を通じて、環境負荷低減に対する取り組み、及びリサイクル部品の利用促進に従事し、循環型社会の実現という社会的使命を達成していきます。また環境マネジメントシステムの継続的改善を行い、環境保全活動に従事する事への使命感を強化することが、今企業としてもっとも大事な事だと思っております。



環境委員会担当理事
佐伯 孝雄
株式会社 代表取締役

お客様とともに

iii お客様第一の安心品質

自動車部品にはお客様の安全が託され、万全な品質を保証する責任があります。NGPは発足以来、お客様を最優先する「お客様第一主義」に徹することで安心なリユース商品を提供してきました。これからもお客様満足度を高めるために、お客様の視点に立ち、より良い商品を提供し続けることが使命であると考えます。

iii お客様の声の反応

NGPは日常の業務や電話・メールなどの情報を通じて寄せられた商品・サービスに関するご相談・ご意見・ご要望に迅速・丁寧な対応を心がけています。お客様の声はNGPへの期待であり、貴重なご指摘として認識し、真摯なコミュニケーションを図

り、現場にフィードバックして、品質改善・販売対応でお客様の満足度を高めるために役立っています。特にお客様のクレームは本部の指導事項であり、原因究明の調査を着実に実行し、重要なものは本部で協議して業務改善の指導による再発防止に取り組んでいます。NGPはお客様の満足度を高めるため、得られたお客様のご意見を業務に十分反映するとともに、製品やサービスの信頼につながる改善につなげていきたいと考えています。

- お客様への責任
- お客様満足への活動基本

1. 安全で信頼される製品とサービスをご提供します
2. お客様からのご要望、ご相談には誠実・迅速・的確に対応します
3. お客様の声からお客様にご満足いただける製品・サービスの開発、改善に努力します
4. お客様の個人情報を保護します

VOICE ● 組合員の声

“お客様第一”の徹底実践

私共はNGP三大信条にもある“お客様第一”を徹底実践するために、新入社員に向けて、リサイクルパーツの生産から販売に至るまでの研修会を開催しております。その中で品質レベルの統一や販売モラルの向上を教育し、団体行動の大切さを感じていただいております。また全国9支部北海道から九州までの次世代リーダーを育てるため、支部指導員を配置し、さまざまな問題点の解決と改善に取り組んでいます。



組織指導委員長
堀 正人
㈱ツグダ自動車
代表取締役

クレーム発生率の減少をめざす

次世代自動車の普及にともない、私たち自動車リサイクル業界も大きな転機を迎えようとしています。このような事態に備え、「ハイブリッド研修会」を初めとし「アイドリングストップ関連資料」の提供、パルス信号に測定可能な「エンジン圧縮比測定器」の斡旋、また先の震災にて発生した被災車両にいち早く対応するべく「水没車検登録ガイドライン」の作成とこれに関わる調査・指導を行



商品管理委員長
鈴木 博文
㈱オートセンター
NAO
専務取締役

うなど、お客様に安心・安全でご満足いただけるリユースパーツをご提供し続けることができるよう日々注力しています。委員会としてこのような取り組みと組合員の努力により、昨年度の全国平均クレーム発生率を前年度1.55%から1.23% (0.32%減) と、大きく向上することができました。この結果に満足することなく引き続き業界のリーダーたることを信条とし、今後もさらに進化した高品質なNGPリユースパーツの生産とクレーム発生率の減少を目指して邁進していきます。

NGPシステムの改善

リサイクルパーツの生産～販売管理をするNGPシステムに生産効率化システムという新しい機能追加をしました。使用済自動車の仕入見積り～在庫管理～部品生産～部品登録までの情報管理を行うとともに、自動車リサイクルの工程管理を現場端末(PDA)を使用する事で一連のデータ処理を行う事が可能となりました。NGPシステムと自動車リサイクルシステム、両システムに重複するデータ入力が必要なくされていましたが、システムを連動させる事で無駄な入力を省く事が可能になりました。今後も生産性と作業の効率化を目指し、尚且つ、車両1台当たりの収益を確認できるシステムを構築していきます。



システム委員会
担当理事
津田 隆二
津出興業(株)
代表取締役

iii 環境にやさしい整備工場の紹介 web「NGPエコひろば」

NGPはリサイクル部品の啓蒙と「エコ整備」に熱心な修理工場を案内するwebサイト「NGPエコひろば」を2010年より運営しています。このサイトでは自動車リサイクルとリサイクル部品の環境貢献と安心して使用できる製品の品質、活用事例などを案内し、修理部品のほとんどがリサイクル部品で賄えること、またリサイクル部品を使用することで車の修理費が大幅に節約できることなどをPRしています。さらにリサイクル部品で修理を希望するユーザーにはこのサイトから全国の修理工場(約

2000社が登録)からお近くの工場を検索して修理費の見積りが取れる仕組みになっています。

「NGPエコひろば」の参加登録店は日頃からリサイクル部品を積極的に活用し、修理の経験と蓄積された豊富なノウハウの優良工場が集約しているため、信頼性の高いサイトとしてアクセスが多く、ユーザーからも好評で、さらなる発展の期待ができそうです。また参加登録店は4月よりスタートしたNGPリユース部品のベルマーク運動のサポーター工場として協力していただき、ユーザーにリユース部品にベルマークがついていることと、ベルマークで被災地の学校支援ができること、またこの運動へのユーザー参加の呼びかけをお願いしています。

web サイト
NGPエコひろば

ボディをキレイに! 電気系もチェック やっとこれで遠出のドライブもできます。 40代 会社員

大抵の車なのにそんなに早く直るの? 話を聞いて納得しました。 30代 自営業

ボディにキズがあったけど駆動系は調子イイ。予算がなかったので助かった。 40代 自営業

最初からリサイクル部品で修理を依頼。運転が仕事なので、仲間の情報で「これだ!」と直感。 やってよかった~ 40代 自営業

万一のときはリサイクル部品 本当に助かった ので知人・友人に勧めています。 20代 学生

地球温暖化が心配。車を持っているだけで責任がありそう。 少しでも貢献できればと修理はリサイクル部品。 30代 主婦

使ってみて全然大丈夫! リサイクル部品に関して心配だったけど 全然問題ナシ。 保証付きで安心感いっぱい。 20代 OL

お店に「早く、安く、安心」にと相談したら! エコな車検もOK でした。 30代 自営業

古い車なのでとても心配でした。 部品情報が豊富で お店の方と一緒に選びました。 車がうんと軽くなった感じがします。 60代 男性

●「NGPエコひろば」登録参加店の掲載例

登録店の企業概要・PR・資格・提供サービス・店舗写真・店舗地図などを掲載

子供たちの未来のために整備・修理にはリサイクル部品を活用するカーライフを始めましょう!

「NGPエコひろば」登録参加店ステッカー

リユース部品を積極的に活用する参加登録店に発行しています。全国の環境整備に熱心で、信頼の高い整備工場が参加し、親切・ていねいな対応を心がけています。お気軽にご相談ください。

- リユース部品の品質/保証
- リユース部品の活用事例
- NGPベルマーク運動 サポーターの募集
- NGPベルマーク運動 活動報告
- 自動車リサイクルの経
- リユース部品を活用するお近くの修理工場を捜そう!
- 掲載店のサービス・キャンペーンなど
- リユース部品を使った自動車修理のすべてがわかるビデオ(NGP制作)

今すぐパソコンから NGPエコひろば 検索 www.eco-hiroba.net/

従業員とともに

明るくやりがいのある職場

従業員が持てる力を十分に発揮できる職場をめざし、透明で公正な評価制度を整え、従業員の意欲を尊重した人事制度を奨励しています。年齢・性別・身体的特徴・国籍の違いなどを「多様性」として認め、また性別や雇用形態などに関わりなく、存分に実力発揮できる環境づくりを進めます。

●人事の基本指針

1. 適材適所・人材育成を旨とした人事配置、ローテーションの実施をします
2. 透明・公正かつ実力主義による評価、処遇の実現をします
3. 企業実力に見合った労働条件の設定と社会要請に対する迅速な制度的対応をします
4. 能力開発のための教育機会の積極的提供をします

VOICE ● 取引先の声

CSR活動の情報発信が重要

地域社会における各NGP組合員様の取り組みは非常に大切だと思います。特に次世代を担う子供たちへ自動車リサイクルの重要性を説明していくのは、NGPの重要なCSR活動のひとつであると考えます。エコプロダクツへの出展では小学生が興味を持つような工夫、各組合員が積極的に受け入れている工場見学のような活動をより一層充実していただき、ホームページ等の媒体を通してアピールしていくことが大切だと思います。2012年度からはベルマーク収集活動もスタートしています。全国の小学校や周囲の方々との連携を強めていくような活動・取り組みを行い情報発信をしていくことも重要ではないでしょうか。



フップ東京南
代表取締役
池谷 朝洋

VOICE ● 組合員の声

人材育成について

私は教育委員会に所属して7年、委員長として5年が経ちました。その間、基礎研修会12回連続参加、その他、色々な研修会を開催し約2000名の受講生を卒業させてきました。私の委員会活動の経験から思う事は、研修会で受講生に知識を与えるのは当然であり、人との繋がり(他人への気遣い、心遣い)の大切さを研修会を通して身をもって感じてもらう、自己の限界へ挑戦し能力は自分の心の持ち方次第でいくらでも上下する事を気づいてもらえるように行ってきました。それによってNGPの原点である運命共同体、NGPイズムを実践できる集団になっていくと確信しています。今後は時代に対応した新規研修会の確立や、次世代後継者のための研修会を模索していきます。基礎研修会が



教育委員長
岩井 悟朗
オートパーツ・イワイ
代表取締役

調達取引先とともに

公正で透明性の高い購買体制

取引先とのパートナーシップに基づく公正・公平な購買取引を推進し、取引先と健全な相互利益関係の実現を目指しています。また調度品については周辺環境への配慮や環境マネジメント体制を評価して環境配慮製品の購入を優先しています。

●取引基本指針

1. 透明性 オープンで透明性のある取引をします
2. 公正 お取引先の選定は公正な評価に基づきます
3. 法令遵守 関連法規を遵守し、かつ法令の条項とその精神も尊重し、業務を遂行します
4. 環境保全 積極的に「グリーン購入」を進めます
5. 相互信頼 お取引先との対等なパートナーシップに基づく取引を通じ、信頼関係を築きます
6. 倫理 厳正な倫理観に基づくお取引と適切な関係を維持します

ら経営者研修会までの教育体系をより充実させてNGPならではの特色のある教育を目指していきます。これからもNGPへの熱き思いをもって活動していきます。

理念の共有と人材育成が重要

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合も25年経ち、その間幾多の困難もありましたが、歴代の先輩方のおかげで今のNGPがあると思います。NGP三大信条の理念を受け継ぎ継承していくことが大事だと思います。教育委員会では、理念の共有と人材育成に力を入れ先輩から後輩に指導し心を一つに、気持ちを高め共に育つ「共育」に徹していきます。今後は、時代に合わせたカリキュラムを作成した研修会を開催します。



教育委員会担当理事
伊地知 志郎
オートパーツ伊地知
代表取締役

「風見鶏の育成」

自動車リサイクル法が2005年1月に施行されてから、7年経過しました。不法投棄車両も減少し、フロン、エアバック、シュレッダーダストの3品目も適正処理され、制度が定着して来ました。レアメタル、レアアース等、希少金属資源も注目を集め、付加価値追求の動きが見られます。自動車リサイクル業界は今後、資源リサイクルに重心を置かず、リユース部品にウエートを置くか、選択を求められて来ます。リユース部品の認知が進み、需要が膨らむ環境の中、供給が十分確保されるのか、一抹の不安が残ります。リユース部品は単に利益追求だけに走らず、幅広く深く供給出来る体制を考える事、又お客様のニーズに合わせた在庫の有り方等、あらゆる方面を見渡せる風見鶏が必要になります。足元ばかりを見つめないで、遠く高く先を見通せる風見鶏の、人材育成を目指します。



組織指導委員会
担当理事
山下 禮市
アーク樹 代表取締役

社会とともに

国内最大の環境展 「エコプロダクツ2011」に出展

12月15日～17日に東京都江東区の東京ビッグサイトで開催された「エコプロダクツ2011」にNGPは6年連続で単独出展し、自動車リサイクルの仕組みとリサイクル部品の利用促進を呼びかけてきました。今回はブースのコンセプトを変更して、青い地球をイメージする大きなドームを作り、その前面にコンパクト電気自動車(EV・青森県八戸市 エコブリッジ社製作)やリユース部品・リビルト部品を展示し、ドームの中では自動車リサイクルをナレーターによる紙芝居で分かりやすく説明しました。またNGP25周年を記念した「きれいな地球に残しておきたい自然や生き物」をテーマに小学生から募集した絵画を展示しました。入選作品25点のタペストリーを制作、残りの応募作品はカラーコピーでブースの壁画に飾りつけました。作品を寄せていただいた小学生には前もってエコプロダクツのご案内をしたところ、何組かのご家族がブースを訪ねてくれました。また東日本大震災後に自動車リサイクル事業者団体とボランティアで取り組んだ被災車両の引き上げ活動もパネルなどで案内し、義援金の募金も同時に実施しました。義援金を寄付していただいた方には組合員が集めた自動車メーカーや車名のエ



青い地球をイメージしたドームでブースを一新



ドーム内はプロのナレーターに頼んでしっかりと自動車リサイクルをPR



NGP25周年の記念事業に応募いただいた小学生の協力で素敵な壁画ができた

ンプレムをプレゼント用に大量に準備しましたが、大変喜ばれて、わずか2日間ですべてなくなりました。(集まった義援金は被災地にお届けしました)今後も引き続きエコプロダクツに参画することで、リサイクル部品の啓蒙・普及に努めます。



コンパクト電気自動車の展示



リユース部品の展示コーナー

環境・社会貢献活動をアピール IAAE2012に出展

3月14日～16日に東京都江東区の東京ビッグサイトで開催された「第10回国際オートアフターマーケットEXPO (IAAE) 2012」に出展しました。IAAEは自動車アフターマーケットのビジネス活性化を図る商談型国際見本市で、昨年は東日本大震災の影響で中止になりました。NGPはリターナブル梱包材や4月から開始したベルマーク運動を中心に自動車リサイクル事業を通じた環境配慮活動と社会貢献活動を紹介しました。リターナブル梱包材はリユース部品納品時の使い捨て段ボールから、くり返し使用できる専用梱包材に代えることで環境負荷低減につながることをご案内し、ドア・フェンダー用、バンパー用、開発中のエンジン用などを展示しました。ベルマーク運動はNGPリユース部品に添付している品質保証シール「ギャランティシール」にベルマークをつけ、主に震災被災地の教育施設の復興支援に役立てたいと呼びかけました。



環境活動、社会貢献で一歩先行く姿勢を強調

あいおいニッセイ同和損保の パートナーズセミナーで リサイクル部品をPR

11月22日にあいおいニッセイ同和損保の名古屋支店で開催された、地球環境保護をテーマの「パートナーズセミナー」に協力し、自動車リサイクルに関する講演とリサイクル部品の展示を行いました。セミナーは玉木基裕専務理事の講演で自動車リサイクルの適正処理と高品質なリサイクル部品の提供などNGPの真摯な活動をPRしました。展示コーナーでは東海支部組合員が参加してリサイクル部品を展示しリサイクル部品のCO₂削減効果などをアピールしました。



整備業者が多数参加したあいおいニッセイ同和損保のパートナーズセミナー

韓国整備事業者の視察団が来日 NGPを訪問・工場見学・意見交換会

韓国の自動車整備事業者の視察団が6月27日～29日に来日し、NGPが協力して施設見学などの設定を行いました。視察団は京畿道自動車検査整備協同組合の一行で金理事長を団長とした総勢23人。ケーブルテレビの取材スタッフも帯同していました。韓国・京畿道はソウル特別市、仁川広域市を取り囲むエリアでソウルのベッドタウンとして発展しています。京畿道自動車検査整備協同組合は、この地域で車検整備・事故修理などの事業をする有力な組合です。韓国では保険による事故車修理の費用を低減するためにリサイクル部品の活用を検討しているそうで、視察団は先行する日本の事例を探ることが目的ということでした。

視察団は初日にNGP組合本部を訪れ、NGPシステムを中心としたリサイクル部品の販売の説明を熱心に聞いていました。翌日28日は静岡県の自動車整備協業組合カテックフジ、NGP組合のマルトシ青木、あいおいニッセイ同和自動車研究所東富士センターの施設見学を行いました。最終日29日はリサイクル部品特約保険に取り組んでいるあいおいニッセイ同和損保本社を訪問し、リサイクル部品を使用した事故車修理の現状について説明を受けました。韓国の整備事業者はリサイクル部品の利用状況ばかりでなく、レパレ



海外との交流を続けるNGP協同組合。今回、韓国・整備事業者団体と交流した

ートや標準作業時間など、事業経営の根幹にかかわる問題に強い関心を示していました。日本の修理部品販売は自動車メーカーが供給する純正品が主流になっているため、リビルト部品を含めたりリサイクル部品は総市場の5%程度にとどまっています。こうした市場環境のなかでカテックフジは部品購入の2割がリサイクル部品で、しかもこのところ利用率が上昇傾向にあるそうです。リサイクル部品の利用を促進しているカテックフジで視察団一行は、整備された工場とバンパーなどの外装部品の取付けを行なっている車体整備工場などを見学、また塗装ブースの様子なども熱心に写真に収めていました。マルトシ青木ではガソリン・オイルなどを抜き取る使用済み自動車の解体処理の前処理工程、エアバック作動車上処理など適正処理の作業工程を見学するとともに、使用済み自動車から取り外したリユース部品について品質を確認するなどの管理を行い、全国に出荷している作業の様子を見学しました。韓国でもリサイクル部品は販売されていますが、事業者間の在庫共有システムもなく、ネットワーク形成は検討が始まった段階にあるそうです。当然、日本のように注文した部品が翌日に整備業者に届くという仕組みは構築されておらず、自動車修理におけるリサイクル部品の利用率は修理用品市場全体の1%程度にとどまっているそうです。このため日本と同様のシステム導入を考えており、NGPシステムへの高い関心を持っています。今回の視察団には韓国ケーブルテレビの取材スタッフが同行していて、NGPでは宮地康弘相談役が、マルトシ青木では青木勝幸社長（NGP顧問）がインタビューを受けました。これを含めて一連の施設見学、交流の様子が韓国内で放映されるということでした。



日本の整備事業の現場で見学（カテックフジで）



高品質部品を提供するNGPの作業を熱心に見学（マルトシ青木で）

地域とともに

地域との調和を大切にします

NGPはよき企業市民として、法令を遵守して行政や地域の方々との対話に努め、地域社会との調和を保つよう配慮しています。事業活動・環境保全などについて情報を開示して地域の方々の適切なコミュニケーションに努めていきます。

●社会貢献活動基本

1. 安全な地域社会づくりのためのグループ・組合員参加型の社会貢献活動を推進します
2. 組合員のボランティア活動を支援をします
3. 社会貢献活動において、NPO・NGO等と協力体制を整えます

「三木金物まつり」で地域と交流

多田自動車商会（兵庫県）

11月5・6日に開かれた「三木金物まつり」に例年参加している多田自動車商会が本年も出展しました。三木金物まつりは刃物産地三木市の伝統的な一大有名イベントで、今年は県内外から約18万人が来場しました。多田自動車は地域社会の交流を目的に自動車リサイクルとリサイクル部品、不要車両の買取りをPRし、特に好評の自動車エンブレムの販売と新事業リボン・カーリースの告知に力を入れました。リボン・カーリースはしっかりと整備した中古車をニコニコレンタカーで提供し、お得な価格で自動車利用ができるサービスです。同社はブースにリボン車両の見本車を展示するとともに、パネルでこのサービス内容をわかりやすく説明しました。当日は会場にあふれる熱気に負けない多田自動車商会の社員一同が元気な声を出して、地域のふれあいに努めていました。



会場にあふれる熱気、地域との交流を目的に積極的に参加している多田自動車商会

「エコ・もりフェア」に参加しました

栃木パーツ（栃木県）

10月8・9日に宇都宮で開催された「エコ・もりフェア」に栃木パーツが出展しました。環境・エコライフに関する展示や体験で楽しく学ぶ栃木県の主催するイベントです。栃木パーツに来店されたご家族は2日間で470組になり、親子でシートベルトを材料にしたエコブラシ・ウォレットチェーンをスタッフと一緒に手作りする楽しい時間を過ごしました。



ワイワイガヤガヤとスタッフにも楽しい2日間でした



できあがったエコブラシです

鹿児島市温暖化対策地域協議会が オートパーツ伊地知を見学・意見交換

オートパーツ伊地知（鹿児島県）

鹿児島市温暖化対策地域協議会が3月23日オートパーツ伊地知を訪問して、工場見学とリサイクル部品と地球環境保全の視点で意見交換をしました。協議会には市民・事業者・行政の協力で2007年7月に設立、温室効果ガス排出削減を進めるための活動に取り組んでいます。オートパーツ伊地知は伊地知志郎社長がリサイクル部品の生産・商品化の工程や品質・在庫管理などと、リサイクル部品のCO₂削減効果などを説明しました。また4月からNGPが取り組んでいるベルマーク運動への協力を提案しました。協議会の参加者からはユーザーへの販売方法、品質保証について、利用時のアドバイスなどの質問がありました。また工場見学の感想として商品化から在庫までの製品にキズがつかない管理に驚いていたようでした。



自動車リサイクル部品の重要性を説明するオートパーツ伊地知社長

環境リスクマネジメント

組合員企業の事業内容・立地条件から想定される環境リスク（環境事故・環境汚染・法令違反など）について未然防止とリスクの最小化に取り組んでいます。特に「排水・排出ガス」「油類・化学物質の漏

えい」「土壌・地下水汚染」「騒音・近隣からの苦情」には適正に対応して①異常を発生させない②万一発生した場合は、被害の最小化と確実な対処、情報開示を方針として日常点検、監視管理などを実施しています。

東日本大震災復興支援に関する取り組み

東日本大震災車両処理活動の取り組みの報告

東日本大震災の支援活動として全国181社の解体事業者が、昨年4月より仙台市・岩沼市と仙台空港を管轄する国土交通省東京交通局と協定を締結して、解体事業者従業員約延べ3,300人がクレーン車・フォークリフト車など延べ1,200台以上の事業車両を駆使して、困難な状況の中で被災車両約延べ9,600台の適正処理をボランティアで取り組みました。

NGPはあいおいニッセイ同和損保の協力を得て現地本部を立ち上げ、組合員が交代で主に宮城県仙台市・岩沼市の津波被災車両の撤去に専念しました。また回収車両の管理など本部の人員も派遣して全体の活動を支えました。

東日本大震災被災車両処理活動の概要(抜粋)

●活動内容

活動期間 平成23年4月5日～平成24年4月13日
活動範囲 仙台市は仙台市建設局道路部道路管理課と連携し国道、県道、市道等の幹線道路に漂着した被災自動車の撤去。環境局震災廃棄物対策室と連携し、宅地や企業の敷地等の私有地、公共施設など、さらに宮城県が所管する施設や土地、水田等農地の被災自動車の撤去。岩沼市は岩沼市建設部土木課と連携し仙台市同様、幹線道路、私有地や公共施設等に漂着した被災自動車の撤去。我々の活動は被災現場での事前調査、車輛撤去、一時保管場所での集積管理およびデータ処理と適正処理を一貫した作業プロセスで実施しました。

●活動報告

参加延べ人数	約3,300名以上
使用した作業車両の延べ台数	約1,200台以上
参加事業者数	181社
救援活動に伴い「協定書」を締結した市町村、行政機関	仙台市・岩沼市・国土交通省東京交通局
被災自動車の撤去台数	仙台市/約6,500台・岩沼市/約1,900台 合計/約8,400台
被災自動車の適正処理台数	仙台市/約5,900台・岩沼市/約1,700台・東京航空局/約2,000台 合計/約9,600台(2012年4月16日現在)
被災自動車の適正処理・協力事業者数	解体処理事業者・破砕処理事業者30社
活動期間中の大きな事故・人身事故	0件

ELV機構被災車両処理現地対策本部

被災地に義援金寄贈

東日本大震災の復興を支援するために、本年3月15日に長谷川利彦理事長は日刊自動車新聞社の佃義夫社長を訪問し、日刊自動車新聞社を通じて日本赤十字社に義援金100万円を贈呈しました。



被災地の継続支援で義援金寄贈

東日本大震災車両処理活動を締めくくる式典に出席

日本ELVリサイクル機構(ELV機構)の「東日本大震災被災車両処理活動終了式典」が本年5月18日に宮城県仙台市内のホテルで開催されました。自動車リサイクル業界はELV機構を中心に主に仙台市・岩沼市の被災車両の撤去・回収処理活動が完了したことで、ひとつの区切りとした式典です。

式典には仙台市と岩沼市の副市長、経済産業省・環境省・自動車リサイクル促進センター・自動車再資源化協力機構の関係者が来賓として出席、自動車リサイクル業界の各団体とともに、NGPからは長谷川利彦理事長、大橋岳彦会長が出席しました。危険を伴う撤去・回収作業ではNGPの太田部品(静岡県御殿場市)の太田勲会長らのベテランが実務の指導を実施し、式典では太田会長にELV機構より感謝状が贈られました。またNGPはあらためて義援金を捻出し、仙台市・岩沼市の福祉施設や学校に寄付することで長谷川利彦理事長が両市の代表者に贈呈しました。



行政関係者も出席、締めくくりに参加



挨拶する長谷川理事長

被災地の学校を継続支援するベルマーク運動への取り組み

NGPは東日本大震災の救援活動を通じて、被災地復興支援の長期的な取り組みが必要であることを痛感しました。継続できる長期の支援活動を模索するなかで、あいおいニッセイ同和損保が実践している「被災地の学校支援のためのベルマーク運動」を知り、この運動に共感し、ベルマークへの参加を決意しました。NGPのベルマーク運動はNGPリユース部品にベルマークをつけ、修理工場・ユーザーのご協力で収集していただき、ベルマークはベルマーク財団に届き、財団から被災地の学校を支援する仕

組みです。NGPはグループおよび関係先、さらにお客様への参加をお願いして、被災地の学校と子供たちの教育支援の社会貢献をめざします。



ベルマーク運動への協賛を発表する長谷川理事長以下NGP協同組合役員

ベルマーク教育助成運動協賛会社への加盟について(要旨)

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合は平成24年4月1日よりNGPリユース部品の全アイテムをベルマーク付きリユース部品として販売することを決定しました。

NGP組合がベルマーク教育助成運動の協賛会社への参加を決意したのは、平成23年3月11日に発生した東日本大震災で、多くの方が犠牲となり、大量の車が散乱する被災地のニュースがテレビ放映されるのを見て、被災地の救援ボランティア活動を決意したものです。提携関係にあるあいおいニッセイ同和損保様の協力を得て、4月11日に同社の仙台自動車研究所にNGP被災車両救援本部を設置し、仙台市を中心に救援活動に着手しました。救援活動は約2ヶ月にわたり延べ854人が参加して被災車両の救援引き上げに専念しました。この活動で悲惨な被災状況に何度も直面し、特に仙台市蒲生区中野小学校、荒浜小学校、東六郷小学校が津波により全壊しているさまにNGP救援部隊の組合員は声も出さず強く心を痛めたものでした。忘れることのできない非情な東日本大震災からすでに約1年が経過しようとしています。当時は多くの方が被災地への思いで行動し、組合員も多くのボランティアも同様に被災地での活動に専念して「日本の絆」が全国の人々の心を結びつけていました。しかし今後はこの震災・津波による家族・家屋を失う被害、福島第一原発の放射能汚染による避難・被害など長期にわたる被災者支援活動の中に「絆」が徐々に風化されていくのではないかと、胸の痛む日々が続いておりました。そのような中、あいおいニッセイ同和損保様の「たすけ愛・支えあいプロジェクト・被災地に届けみんなのベルマーク運動」が被災地の学校と子供たちの復興支援を継続的に実践していることに感銘を受けました。早速、公益財団法人ベルマーク教育助成財団様をご紹介いただき、平成24年2月1日にベルマーク財団の協賛会社として認められました。

私たちのベルマーク運動は平成24年4月1日からの展開になりますが、NGP組合本部、組合員会社、関係取引先を含めてNGPグループの組織をあげてこの運動の「輪」を広げていきます。今後はリユース部品の利用促進PRとベルマーク収集活動で私たちのお客様である自動車整備事業者様にサポーターのご協力をお願いするなど、子供たちの将来に役に立つベルマーク運動で「絆の輪」をさらに広げて社会貢献に努めていく所存です。

平成24年2月24日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合

NGPのベルマーク活動

本年2月1日にNGPはベルマークの協賛会社になり、NGPの販売するリユース部品の品質保証シール「ギャランティシール」にベルマークをつけて、4月1日より活動をスタートしました。ベルマーク番号は「76」で一枚5点です。ベルマークはリサイクル部品を使って修理をしたお客様に差し上げるものですが、ベルマークを必要としないお客様の場合でも被災地の学校援助に役立つように、修理工場が

自ら回収していただくようお願いしています。また同様に協賛会社としてベルマーク収集で被災地の支援をしている、あいおいニッセイ同和損保の取引先とNGP組合員の顧客が重なっていることもあり、ベルマークの回収・集計などは同社と協力してすすめています。

多くの方々のご協力で被災地の学校支援のためのベルマーク運動を推進しています。



収集箱 ポスター チラシ 収集箱 ポスター

VOICE ● 組合員の声

地域環境展でベルマークをPR

中四国支部 エコテクノ株



当社、エコテクノ株は6月2・3日に開催された地域の世界遺産イベント「花田植え」で「地域環境展」を開催し、NGPリユース部品の展示とベルマーク運動のチラシを配り、社員総出でベルマークをPRしました。当日は子供からお年寄りまで多くの方がご来店され、お客様はリユース部品の品質の高さに感心し、リユース部品のベルマーク運動にも興味が集まりました。これからもベルマーク活動をがんばります。

ベルマーク収集活動をスタート

中四国支部 (株)エビス



【胡社長のお子様からメッセージ】
今回お父さんの会社がベルマークの会社になったと聞き、さっそく会社に行きポスターと収集箱を見てきました。僕の小学校ではベルマークを集めていて、僕も協力しています。これからはお父さんの会社のベルマーク箱に入れて、たくさん貯まったらお父さんと一緒に学校に届けます。会社のみなさんも協力してくれるようでとてもうれしく思いました。

【胡社長から】
全社をあげてベルマーク活動を行い、リユース部品を利用している修理工場にも賛同を呼びかけました。皆様の興味津々でした。

西谷山小学校にベルマークを贈呈

九州支部 (株)オートパーツ伊地知



西谷山小学校は日頃よりベルマーク運動に積極的に取り組んでおり、持参した約1500枚のベルマークを贈呈し、小倉学校長と日高ベルマーク部長と会談しました。NGPがベルマークに加盟したこと、4月から活動する旨を説明しました。学校長から「非情に素晴らしいことですね。お近くにこのような企業があると心強いです。また社会見学などもさせていただきたい。」と、日高部長から「ベルマークは長期的な取り組みですのでこれからも協力をお願いします」との感想をいただきました。



若狭良治氏

株式会社NERC相談役・研究員。
元コープ低公害車開発株式会社専務

ご略歴

1944年生まれ。北大農学部卒業。日本生活協同組合連合会に1992年まで勤務。商品管理、仕入、商品開発、人事教育、経営指導などに従事。1992年、コープ低公害車開発株式会社に移籍。電気トラック、LPGトラック、DMEトラックの研究開発、普及活動に2006年まで従事。2006年より一般社団法人DME自動車普及推進委員会事務局長。2012年現在、株式会社NERC相談役・研究員。

リサイクル部品市場が欧米に比べて規模が小さすぎるという。理由として、「カーユーザーに対するリサイクル部品の認知度啓蒙不足」が原因としているようだが、そのことについて考えてみたい。

一昨年、私の10年超えのワンボックス車が故障した際に、修理業者が純正部品で取り換えるのはもったいないということで中古部品の採用を勧めてくれた。おかげで修理費がだいぶ安く済んだ。業界から見た場合、ユーザーとは、修理、改造事業者と最終のカー所有者である。全くの業界外人であるカー所有者にとって、全てというくらい、中古部品は未知の世界である。

一方、車両を購入したカーユーザーにとって、直接の窓口はディーラーである。そのディーラーでの囲い込みが強くなっていると感じる。さらに定期点検時にディーラーでの整備を事実上義務付けするような動きが気になる。マーケットの閉鎖性を一段と強めるような動きである。

また、最近の新車では部品を交換するような場面は事故での修理でもなければそれほど多くない。しかし、日本でも新車および中古車の所有期間が長くなる傾向にあり、徐々に交換部品の利用も多くなると考えられる。

CSRレポートに「認知度啓蒙不足」と書いているが、一般ユーザーは中古部品を知らないのが当たり前。正しい情報を適切に伝えるという意味で、知らないことを教育する意味の「啓蒙」より、正しい情報による「普及啓蒙活動の強化」と言う方が適切ではなからうか？

多くの人は、全く知らない中古部品の世界を語る時、いかがわしい暗い流通世界をイメージする。業界のホームページを拝見すると悪いイメージを取り除く努力を積み上げているのがわかる。さらにリユースやリビルト部品の露出(テレビなど)を積極的に行い、利用をカーユーザーに訴求することで、整備事業者のユーザーへの説明が明るく、明瞭になるのではないかと考える。



遠藤幸宏氏

日刊自動車新聞編集局第1部記者・
経済産業省担当

ご略歴

1990年日刊自動車新聞社入社。1992年から2003年まで関東支社にて東京都、神奈川県取材担当、群馬支局長などを務め、編集局に異動。自動車メーカー、新車、輸入車、分解・車体整備、損害保険、レンタカー、物流などの分野の取材記者を担当した後、2011年から現職。

CSRレポートの最後のページまで目を通すということは、日常の取材業務ではなかなかありません。CSRレポートの記事にする場合、主要なポイントや過去のCSRレポートの内容と異なる部分を読んでまとめています。今回拝見させていただいたNGP日本自動車リサイクル事業協同組合のCSRレポート2012の感想をまとめることに際して、NGPのホームページを閲覧させていただいたところ、過去のCSRレポートが見当たらなかったことが残念です。

CSRレポートは企業や団体の活動を知るのに非常に便利な報告書です。NGPに興味を抱いた方の中には、自動車リサイクルシステムの中でこれまでNGPが果たしてきた活動を知りたいと思われる方がいらっしゃるはずです。歴史のある企業集団なのですから、是非とも過去の報告書も閲覧できるようにしていただきたいと思いました。

さて、CSRレポート2012についての感想ですが、非常にわかりやすくきれいにまとめられていると思いました。読者の方が取引先から一般の自動車ユーザーの方まで幅広く存在することを考えると、1冊の報告書にまとめる作業は大変ご苦労されたと思います。テレビCMも流されていますので、自動車ユーザーの方が目にする機会も増えると考えられますので、一言一句、気を遣われてまとめられたということが感じられました。

ただもう少し情報が欲しいと思えた部分を述べさせていただきます。まず、組合員の方々の事業活動における好事例が紹介されていると、自動車ユーザーの方も親しみやすくなるのではないのでしょうか。また全国に広がるネットワークの規模はわかるのですが、自動車産業の中に占めるNGPの位置付けに対する記述が弱いように感じました。雇用の状況も記述していただきたいと思えます。

NGPは自動車社会や循環型社会の発展を支える企業集団ですので、組合員企業や働く方々の社会的地位向上に繋がる重要な報告書として、CSRレポートの内容をさらに充実させていかれることを望みます。

組合概要

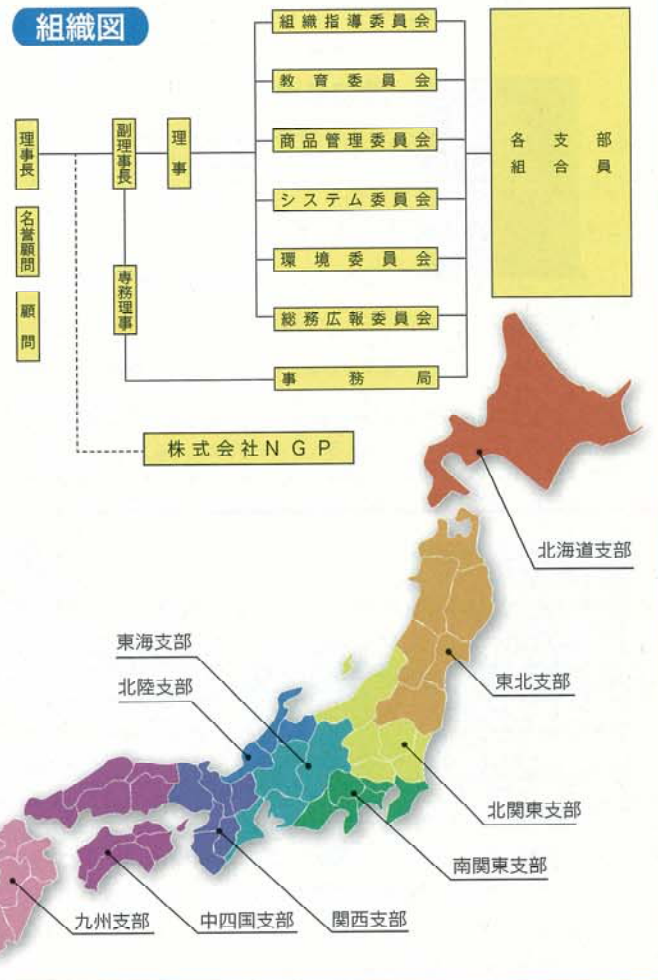
組織概要

組織名 NGP日本自動車リサイクル事業協同組合 (所管 経済産業省)
本部 〒108-0074 東京都港区高輪3-25-33
長田ビル
TEL.03-5475-1208 FAX.03-5475-1209
創立 1985年4月
理事長 長谷川利彦
組合員数 139組合員、190拠点
主な事業内容 健全な自動車リサイクル事業の構築を目指し、全国組合員企業の経営意識向上、意識改革までの「企業の社会的責任」を遂行し、補修部品の消費者への啓蒙と販売

株式会社NGP

NGP協同組合の関連会社で、2003年9月にNGP協同組合本部と同一事務所(品川)に本社を移転し、組合と一体体制のもと、NGP協同組合支援を中心に事業活動を展開しています。
その事業内容は、NGPシステムの運営管理、損害保険会社及びリース会社等の使用済自動車引取受付業務、ISO14001のコンサルティング等で幅広く会員企業の経営拡大をサポートしています。
また新たな自動車リサイクル時代に向けて、新システム活用「INGPダイレクト」や「事故車画像見積システム」を開発するなど、グループ戦略を推進しています。
●TEL.03-5475-1200 ●FAX.03-5475-1201
●創立/1990年11月 ●資本金/4,000万円
●代表取締役/長谷川利彦

組織図



組合員名簿 (2012年10月現在)

Table listing member companies with columns for code, company name, postal code, address, and phone number. Includes regional sub-sections like 北海道, 東北, etc.

Table listing member companies with columns for code, company name, postal code, address, and phone number. Includes regional sub-sections like 北海道, 東北, etc.

Table listing member companies with columns for code, company name, postal code, address, and phone number. Includes regional sub-sections like 埼玉県, 東京都, 千葉県, etc.

Table listing member companies with columns for code, company name, postal code, address, and phone number. Includes regional sub-sections like 福井県, 京都府, 大阪府, etc.